

自 年 月 日
至 年 月 日

國際聯盟協會關係
一件
(參考書類ノ一)

第一卷

外務省
記録

自 年 月 日
至 年 月 日

國際聯盟協會關係
一件
(參考書類ノ一)

第一卷

B
9
0
0
2

B-0344

國際聯盟協會關係書類(二)

大正九年—十年

B-0344

大正六年
聯合國
傷病兵
慰問會
寄附者
名簿

大正六年聯合國傷病兵罹災者慰問會寄附者（千圓以上）

額	氏名	住所
十萬圓	男 岩崎 小彌太	芝
同	男 三井 八郎右衛門	麻布
四萬圓	中 村 雄次郎	四谷
同	男 近藤 廉平	牛込
同	子 三島 彌太郎	千駄ヶ谷
三萬圓	日 本 兵 機 會 社	大塚
同	男 住友 吉右衛門	向
二萬五千圓	男 古河 虎之助	日本橋
同	男 大倉 喜八郎	赤坂
同	安 田 善三郎	本所
同	安 田 善二郎	本所
同	橫濱 正金銀行	橫濱

B-0344

大正六年聯合國務病兵罹災者慰問會寄附者（千圓以上）

國際紅十字會
集會之參考資料
松田理子氏
杉本幹子

同

安田善三郎
橫濱正金銀行

住 所
芝 布
麻 谷
四 谷
牛 込
千 駄 ヶ 谷
大 阪
同 本 橋
日 本
赤 坂
本 所
松 濱

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 五千圓

伊藤傳七 橋本圭三郎 岩井勝次郎 日本毛織會社 橋本春造 町田豐千代 白石元治郎 茂木惣兵衛 原富太郎 山岡順太郎 原田六郎 岸本兼太郎 岸本五兵衛

三重縣 四日市町 長岡市 寶田石油 兵庫 御影町 同 神戶 浦賀船渠社 日本網管社 神奈川縣橋樑郡田島村 同 綾瀨市 大阪鐵工所 大阪市外天王寺 大阪北區 同 大阪西區

三千圓 五千圓

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

若尾謹之助 石塚英藏 森上卯平 山口達太郎 清水清之助 男 郷誠之助 久米良作 川崎八右衛門 中井新右衛門 相馬平治 藤田四郎 藤山雷太 山本傳二郎

山梨縣 東洋拓殖 大連市 麴町 同 神田 東京瓦斯 日本橋 同 芝 同 同 同

B-0344

三 千 圓
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 二 千 五 百 圓
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

大 阪 亞 鉛 鐵 業 會 社
 尼 崎 伊 三 郎
 新 兵 衛
 川 西 清 兵 衛
 伊 藤 長 次 郎
 武 藏 山 治
 貝 島 榮 四 郎
 男 安 川 敬 一 郎
 水 越 理 磨
 野 澤 源 次 郎
 阿 部 泰 藏
 廣 川 太 郎 兵 衛
 三 越 吳 服 店

同 大 阪 北 區
 神 戶
 同 兵 庫 縣 雨 那 伊 保 村
 兵 庫 舞 子
 福 岡 縣 直 方
 同 神 戶 畑 町
 北 海 道 拓 殖 銀 行
 本 郷
 同 神 戶 生 命 保 險
 同 日 本 橋

三 千 圓
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

赤 星 鐵 馬
 侯 德 川 善 親
 須 田 利 信
 侯 細 川 謙 立
 荒 井 泰 治
 和 田 豐 治
 緒 明 圭 造
 山 下 秀 實
 國 塚 磨
 下 阪 藤 太 郎
 男 大 金 喜 八 郎
 廣 津 二 三 郎
 福 畑 勝 太 郎

同 廣 布
 同 四 谷
 牛 込
 同 本 郷
 深 川
 入 新 井 村 新 井 宿
 同 戶 塚 村
 同 總 井 戶 日 本 化 學 工 業
 大 阪 西 區
 大 阪 西 區

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千 同 千

圓

三
百
圓

侯 伊 建 字 陳

金 光 攝 嵐

鈴 木 萬 治 郎

米 井 源 治 郎

下 郷 傳 平

有 島 健 助

山 中 隣 之 助

早 川 千 吉 郎

伊 藤 幹 一

深 田 米 次 郎

梅 岡 平 七

三 谷 長 三 郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 芝

岡 山 縣 淺 口 郡 三 和 村

龜 町 區

神 田 區

同 同 同 同 同 同 同 千 千 同 同 同 二

五 八
百 百
圓 圓

千
圓

吳 錦 堂

近 藤 友 右 衛 門

麻 生 太 吉

成 清 信 愛

高 島 小 金 治

伊 丹 二 郎

小 野 金 六

森 岡 平 右 衛 門

杉 村 甚 兵 衛

伊 東 米 次 郎

若 尾 鑓 造

澁 澤 義 一

本 間 光 輝

神 戶

名 古 屋 西 區

藤 岡 縣 飯 塚 町

大 分 縣 日 出 町

道 町

同

同

日 本 橋

同

入 新 井 村 新 井 宿

横 濱 市

同

山 形 縣 酒 田 町

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千

圓

佐藤政五郎	松村精一	朝田權四郎	平沼久三郎	木村利右衛門	上甲信弘	新井領一郎	土居通夫	山本藤助	菊地恭三	日本製靴會社	石川卯一郎	高木鐵男
-------	------	-------	-------	--------	------	-------	------	------	------	--------	-------	------

同	同	同	同	横濱市	横濱三井銀行支店	横濱製糸社長	同 北區	大坂南區	大坂東區攝津紡績社長	千住	關東酸曹取締役	大久保
---	---	---	---	-----	----------	--------	------	------	------------	----	---------	-----

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千

圓

陸島喜代	高津伊兵衛	小西安兵衛	小倉久兵衛	浦田谷雄	濱口吉右衛門	飯田延太郎	飯田昇次郎	物山半三郎	渡邊大治郎	藤島浪藏	矢野恒太	柴田清之助
------	-------	-------	-------	------	--------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------

同	同	同	同	同	同	有隣神醫生命保險	同	同	同	同	第一生命保險相互	日本橋區
---	---	---	---	---	---	----------	---	---	---	---	----------	------

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千

圓

武智直	牧野元	鹽原又	侯 峰須賀	松方五郎	中澤彦吉	成瀬成	竹内明五郎	千葉松兵衛	河合佐兵衛	近藤利兵衛	益田太郎	菊地長四郎
-----	-----	-----	-------	------	------	-----	-------	-------	-------	-------	------	-------

赤坂區 同 同 麻布區 芝區 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千

圓

安川清三郎	中野清次郎	伊藤傳右衛門	木村之助	後山	男 後山隆俊	遊澤榮一	尼ヶ崎紡績會社	森本台名會社	田村新吉	野崎貞利	榎野	田中茂
-------	-------	--------	------	----	--------	------	---------	--------	------	------	----	-----

同 建賀郡戸畑町	同 二瀬村	同 島縣御前郡土生村	同 島縣御前郡大谷村	同 金澤市	同 瑞玉	同 尾	同 戸	同	同	同	同	同 横濱市
----------	-------	------------	------------	-------	------	-----	-----	---	---	---	---	-------

B-0344

大正六年聯合國傷病兵罹災者慰問會寄附者（千圓以上）

額	氏名	住所
十萬圓	男 岩崎 小彌太	芝
同	男 三井 八郎右衛門	麻布
四萬圓	中 村 雄次郎	四谷
同	男 近藤 廉平	牛込
同	子 三島 彌太郎	千駄ヶ谷
三萬圓	日 本 兵 機 會 社	大 阪
同	男 住 友 吉 右 衛 門	同
二萬五千圓	男 古 河 虎 之 助	日 本 橋
同	男 太 會 喜 八 郎	赤 阪
同	安 田 善 三 郎	本 所
同	安 田 善 二 郎	同
同	橫 濱 正 金 銀 行	橫 濱

二萬圓	東 洋 汽 船 會 社	日 本 橋
同	男 藤 田 平 太 郎	大 阪 北 區
同	久 原 房 之 助	同
同	堀 啓 次 郎	大 阪 商 船
同	鈴 木 岩 次 郎	神 戶
同	櫻 井 鐵 太 郎	臺 灣 銀 行
壹萬五千圓	志 村 源 太 郎	牛 込
同	村 井 吉 兵 衛 助	麩 町
同	村 井 貞 之 助	日 本 橋
同	男 澁 澤 榮 一	同
同	東 京 株 式 取 引 所	第 一 銀 行 頭 取
同	佐 々 木 勇 之 助	同
同	松 方 嚴	十 五 銀 行
同	森 村 市 左 衛 門	芝

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 五 七 同 壹
千 千 萬
圓 圓 圓

公 毛利 元 昭
美濃部 俊 吉
原 邦 六 造
原 興 業 銀行
日本 唯 三 郎
山 本 唯 三 郎
大 橋 新 太 郎
渡邊 治 右 衛 門
池 田 録 三
堀 越 角 太 郎
日 比 谷 平 三 郎
田 中 平 八 助
田 中 銀 之 助
服 部 金 太 郎
皇 田 四 郎

山 口 縣 防 府 町
朝 鮮 銀 行
品 川
麴 町
同
同
神 田
同、第 百 銀 行
神 田
同
同、田 中 銀 行
京 橋
河 口 富 士 製 紙 社

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 壹
萬 圓

山 下 龜 三 郎
淺 野 總 一 郎
侯 前 田 利 爲
高 田 儀 藏
淺 野 總 一 郎
公 島 津 忠 重
新 田 長 次 郎
川 崎 芳 太 郎
勝 田 銀 次 郎
成 瀬 正 行
内 田 信 也
岡 崎 藤 吉
河 野 研 太 郎
四 本 高 二 郎

同
同
同
同
神 戶
大 阪 南 區
府 下 大 崎
深 川 淺 野 之 門 社
同
本 郷
同
同
兵 庫 縣 武 庫 郡 住 吉 町
兵 庫 縣 武 庫 郡 平 野 雪 割 所 町

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 五千圓

岸本五兵衛 岸本兼太郎 原田六郎 山岡順太郎 原富太郎 茂木惣兵衛 白石元治郎 町田豊千代 橋本春造 日本毛織會社 岩井勝次郎 橋本圭三郎 伊藤傳七

大阪西區 大阪北區 大阪外天王寺 大阪鐵工所 橫濱市 同 神奈川縣橋本郡田島村 日本網管社 浦賀船渠社 神戶 兵庫 御影町 長岡市 寶田石油 三重縣 四日市町

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 五千圓

田中長兵衛 德川賴倫 末延道成 高崎親章 根津嘉一郎 神田雷藏 小池國三 神戶舉一 淺野長勳 田中榮八郎 大川平三郎 公徳川家達 王子製紙會社

京橋 麻布 同 同 赤阪 牛込 同 同 本郷 同 同 千駄ヶ谷 王子

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 三
千圓

赤星鐵馬 侯 德川義親 須田利信 細川謹立 荒井泰治 和田豐治 和明圭造 山下秀實 團琢磨 下阪藤太郎 大倉喜八郎 廣海二三郎 稻畑勝太郎 男

麻布 同 四谷 牛込 同 本郷 深川 入新井村新井宿 同 戸塚村 總井戸 日本化學工業 大阪西區 大阪南區

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 三
千圓

若尾謙之助 石塚英藏 森上卯平 山口達太郎 清水滿之助 男 郷誠之助 久米良作 川崎八右衛門 中井新右衛門 相馬平治 藤田四郎 藤山雷太郎 山本健二郎

山梨縣 東洋拓殖 大連市 龜町 同 同 神田 東京瓦斯 日本橋 同 芝 同 同 同 同

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千

藤島喜代
高津伊兵衛
小西安兵衛
小倉久兵衛
神沼谷
濱口吉右衛門
飯田延太郎
織田昇次郎
柳山半三郎
渡邊大治郎
藤島次郎
矢野恒太
柴田清之助

同 同 同 同 同 同 有隣勝生生命保險
同 同 同 同 同 第一生命保險相互
日本橋區

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千 同 千

三谷長三郎
梅岡平七
深田米次郎
伊藤幹一
早川平吉郎
山中隣之助
有島健助
下郷傳平
米井源治郎
鈴木萬治郎
鍋島直大
金光攝胤
伊達宇陳

同 神田區
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
芝
岡山縣淺口郡三和村
麴町區

B-0344

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千
圓

伯 侯 侯
林 山 池 三 岩 秋 中 田 各 西 藤 植 日
博 內 田 野 田 章 野 村 務 脇 崎 村 向
太 豐 仲 村 惣 正 武 藤 三 澄 利
郎 景 博 安 兵 五 營 郎 助 郎 兵
郎 太郎 衛 郎 郎 郎 衛

同 代 千 同 深 同 本 同 同 午 四 同 同
々 駄 川 郷 込 谷 同 同
轄 ヶ 區 區 區 區 區 區
輪 谷

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 千
圓

侯
武 牧 鹽 峰 松 中 成 竹 千 河 近 益 菊
智 野 原 須 方 澤 瀨 內 葉 合 藤 田 地
直 野 又 賀 五 彦 成 明 松 佐 利 太 長
郎 元 堂 茂 郎 吉 彦 兵 兵 兵 郎 四
郎 郎 昭 郎 衛 衛 衛 郎 郎

赤 同 同 麻 芝 同 同 同 同 同 同 同
波 區 布 區 同 同 同 同 同 同 同
區 區 區 區 區 區 區 區 區 區

B-0344

同 千 圓

合 計

壹百貳拾七萬七千七百圓也

松 本 健 次 郎
樋 口 小 介

同 同

B-0344

國際聯盟協會

目次

第一回國際聯盟協會聯合總會會議

- 一 時日
- 二 場所
- 三 參加國
- 四 議長
- 五 決議事項

一時日

大正八年一月二十六日ヨリ二月三日ニ至ル

二場所

巴里

三參加國

英、佛、米、伊、白、塞爾比亞、羅馬尼亞、支那ノ八ヶ國

四議長 Leon Bourgeois

B-0344

五 決議事項

本會議ハ英佛兩國案ニ基キ國際聯盟規約ノ根本原則トシテ左ノ事項ヲ決議セリ

- (一) 國際議事(爭議)ノ平和的解決方法殊ニ國際仲裁裁判所ノ設置
- (二) 國際法ノ發達、各國民ノ自由及國際的秩序ノ維持、未開民族ノ保護ヲ目的トスル國際理事會ノ設置
- (三) 國際爭議解決ノ各種ノ方法ヲ實施スヘキ調停委員會ノ設置
- (四) 軍備制限
- (五) 秘密條約禁止
- (六) 條約尊重ノ保障ヲ提供スル一切ノ國家ハ總テ平等ニ聯盟ニ加入シ得ルコト

其他事項

- (一) 平和條約中Wilson氏十四ヶ條ノ原則ニ反スル條項ヲ加ヘサルコト
- (二) 國際聯盟ハ勞働條件ノ改善ニ努力シ國際勞働局ヲ設置シテ勞働情況ノ研究監督ヲ爲サシメ定期ニ國際勞働會議ヲ開催シテ勞働法制ノ改良ヲ計ルコト
- (三) 國際教育局ノ設置
- (四) 軍備並武器ニ關スル各種ノ制限
- (五) 世界各國ニ國際聯盟協會ノ設置ヲ勸誘スルコト
- (六) 各國國際聯盟協會ノ永續的聯合會ノ設置
- (七) 各國大學ニ國際協力ニ關スル講義ヲ開設スルコト

B-0344

國際聯盟協會

目次

第二回國際聯盟協會聯合總會會議

- 一 時日
- 二 場所
- 三 參加國
- 四 議題
- 五 決議事項
- 六 議論ノ結果撤回セラレタル提案

- 一 時日
大正八年三月十一日ヨリ同月十三日ニ至ル

- 二 場所
倫敦

- 三 參加國
米、英、佛、希臘、支那、
「ユーゴウストラヴ」、
羅馬尼亞ノ七
德國

- 四 議長 Lord Shaw of Dimfermline

B-0344

五 決議事項ノ重ナルモノ

- (一) 信教自由ノ保障
- (二) 聯盟總會ノ權限ヲ成ルヘク廣クスルコト
- (三) 總會ト理事會トノ連絡ヲ圓滿ナラシムル爲理事會員ハ必ス同時ニ總會員ノ一人タルヘキコト
- (四) 總會乃至理事會ノ決議ニ全會一致ヲ要スルノ結果一國ニテモ反對アラハ決議成立セス斯テハ聯盟ノ力微弱ニ過クルヲ以テ此ノ點ヲ改正スルコト
- (五) 國際裁判所ノ權限ヲ條約案第十四條以上ニ擴張スルコト
- (六) 聯盟ノ許可アリ且聯盟規約維持ノ目的ヲ有スル場合ノ外聯盟員カ他ヲ攻撃スルヲ許ササル旨ヲ規約中ニ宣明スルコト
- (七) 第八條第九條第十二條ノ内容ヲ一層明確有力ナラシムルコト

(八) 規約案第十六條中「第十二條ニ依ル約束」トアルヲ改メテ「第八條、第十二條、第十三條、第十五條ニ依ル約束」トスルコト

『注意、第十六條ニハ「第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束」トアリ』

(九) 各聯盟員ハ外國人ノ既得ノ財産權ヲ完全ニ保護スルコト（米國提案）

(十) 聯盟所在地ハ聯盟成立後總會ニテ決スルコト

六 議論ノ結果撤回セラレタル提案

(一) 英ノ Davis 氏ノ提案ニ係ル「賠償トシテ引渡サルヘキ獨逸艦隊ハ之ヲ國際聯盟ノ所有トシ之ヲ以テ國際軍ノ中心トスルコト及將來潜水艇ヲ軍用ニ供スルコトヲ禁スルカ爲各國ヲシテ一切ノ潜水

- 艇並其ノ建造ノ權利ヲ國際聯盟ニ引渡サシムヘシトノ案
- (一) 英ノ Herbert Stead 氏ノ有力ナル國際軍設置案
- (二) 支那ノ提出ニ係ル「理事會ニ代表セララルル小國ノ數ヲ十二増加ス」トノ案

B-0344

國際聯盟協會

目次

第三回國際聯盟協會聯合總會會議

- 一 時日
- 二 場所
- 三 目的
- 四 參列國
- 五 日本側代表者
- 六 準備會
- 七 會議ノ次第
 - (イ) 十二月一日 五委員會設置
 - (ロ) 十二月二日 審議

六 六 六 五 四 三 一 一 一

- 八 國際聯盟協會聯合總會會議決議事項
 - (ハ) 十二月三日 決議案可決
 - (甲) 第一委員會
 - (乙) 第二 同
 - (丙) 第三 同
 - (丁) 第四 同

- 九 各國協會ノ聯合假規定要領
- 十 支那委員ノ提出案
 - 附屬書山東問題
- 十一 日本委員ノ感想
- 十二 次回會議

(各項目ハ上記數字ニテ表示ス)

六 七 七 八 九 十 十一 十二

第三回國際聯盟協會聯合總會會議

一時日

千九百十九年十二月一日ヨリ同月三日ニ至ル

二場所

「ブラッセル」

三目的

本會議ハ固ヨリ各國政府トハ直接ノ關係ナキ私ノ會合ナルモ國際聯盟ニ關スル各國諸團體ノ代表者（一個人トシテハ參加ヲ許ササル趣ナリ）相會シテ國際聯盟ノ思想ヲ普及セシメ各國輿論ノ糾合歸ニテ計ラムトスルモノナル點ニ於テ頗ル重大ノ意義ヲ有シ殊ニ此ノ會ニ於テハ右等諸團體ヲ結束シテ一聯合（Union）ヲ實現セムトスルト共ニ國際聯盟規約ノ實施並改善ヲ促ス可キ諸決議ヲ爲サ

ムトスルノ目的ヲ有スルヲ以テ更ニ重大ナル意義ヲ有スノミナリ

四 参列國

日、英、佛、伊、白、葡、露、支、希臘、波蘭、「ユーゴスラビヤ」、
西班牙、和蘭、瑞西、瑞典、諾威ノ十六ヶ國
〔米國側ハ前二回ノ會議ニ参加セルモ今回ハ出席セス〕

五 日本側代表者

秋月囑託、前田貴族院議員、小野塚、山田剛博士、堀内書記官、末
廣囑託

B-0344

六 準備會

前記諸國ノ團體ヨリハ茲ニテ決議案ヲ提出シ居リタルカ其ノ取捨分類ヲ行ヒ且「ユニオン」即チ聯合構成ノ問題ヲ討議スル爲十一月三十日及十二月一日ノ兩日ニ亘リ各國首席委員ヨリ成ル準備會ヲ開キ日本側ヨリハ秋月氏出席セリ

七 協定事項

(イ) 十二月一日

午後ノ總會ニ於テ五委員會(第一國際聯盟會ノ構成及權限、第二軍備制限及國際軍編成(第三脫)第四國際勞働衛生教育問題、第五各國國際聯盟協議會ノ組織)ヲ設ケ

(ロ) 同二日

夫々審議ノ末

(ハ) 同三日

三日ノ總會ニ於テ各委員會提出ノ決議案ヲ可決シ之ヲ各參列國ノ首相及外相ニ送附ノ筈ナリ

八 國際聯盟協會聯合總會々議決議事項

(甲) 第一委員會

- (一) 聯盟總會ニ出席スヘキ代表者ノ選出方法ハ各國ノ任意ニ任スコト但シ各國國際聯盟協議ハ各自國議會ニ對シ右ノ選出方法ヲシテ成ルヘク「デモクラチツク」ナラシムル様「プロバガンダ」ヲナスコト
- (二) 理事會永久會員増員ニ關スル聯盟規約第四條第二項ノ條項ヲ成ルヘク速ニ適用スルコト尙支那ヨリ右増員ノ場合ニハ領土人口及貿易額ヲ標準トシテ亞細亞ヨリ一國、歐洲ヨリ一國、南米ヨリ一國ヲ出スヘシトノ修正案ヲ出セルモ右ハ獨立ノ案タル性質ヲ有ストノ理由ニ依リ之ヲ討論セス事項ノ重要ナルニ鑑ミ之ヲ次回ニ提議スルコトトナセリ

(乙) 第二委員會

- (一) 佛國ノ提議ニ係ル各國ノ權利義務一例ハ獨立權、平等權、國際法維持ノ爲協力スルノ義務等ノ宣言ニ關スル案ハ別ニ委員會ヲ設ケテ立案セシメ次回ニ提出スルコト
- (二) 各國ハ自國內ニ存在スル總テノ人種ニ對シ公平ナル公權信教ノ自由及國語ノ自由ヲ保障スルコト
- (三) 聯盟規約第一條ニ定ムル條件ヲ充シテ聯盟ニ加入ヲ希望スル國々ヲシテ成ルヘク速ニ加入セシムルコト
- (四) 各國々際聯盟協議會ハ聯盟規約第八條ニ從ヒ速ニ軍備ノ漸進的制限ヲ實現セシムル爲自國ニ於テ「プロバガンダ」ヲ行ヒ輿論ノ喚起ニ努ムルコト
- (五) 各國理事ハ次回國際聯盟會議ニ於テ其ノ國ノ代表者カ漸進的

(丙) 第三委員會

制限ニ依リテ一般的軍備廢廢ヲ爲スヘキ實際的方策ノ案ヲ提議スルノ權限ヲ自國政府ヨリ附與セラルル様決議セムコトヲ望ム

(ハ) 聯盟規約第八條及第九條ニ關シ本年三月ノ倫敦決議ヲ確認スルコト一第八條ニ關シテハ理事會ハ各國軍備ノ最大限及聯盟協同ノ用ニ供スヘキ最小限ヲ定ムル原案ヲ作成シ之ヲ當該政府ニ內示シテ意見ヲ求メ必要ノ場合ニハ各國代表者會議ニ提出スルコト第九條ニ關シテ聯盟規約上ノ義務ノ履行ヲ確保シ火急ノ場合ニ應救ノ策ヲ施スニ足ルヘキ軍事的方策ヲ講スヘキ常設機關ヲ設クルコトノ趣旨ニテ夫々修正ヲ加フヘキコト)

(九) 以上三項ノ趣旨ハ未タ確定的ノモノニ非ス將來米國ノ國際聯盟加入問題決定シタル上再ヒ其ノ審議スヘキモノナルコト

(イ) 法律的解決ニ適スル事件ニシテ外交的手段又ハ調停ニ依リテ解決シ得サルモノハ總テ之ヲ仲裁ニ附シ事件カ仲裁ニ適スルヤ否ヤニ付爭アルトキハ聯盟理事會之ヲ決定スルコト

(ロ) 聯盟規約第十五條所定ノ爭議ニ關シ特別ノ調停機關ヲ設クルコト

(ハ) 聯盟規約ハ殊ニ第十三條及第二十一條ノ規定ニ依リ仲裁調停等ニ關スル從來ノ諸條約ノ存在ヲ正式ニ認め殊ニ海牙條約ノ依然トシテ效力アルコトヲ認ムルモノナルコト

(ニ) 聯盟規約並從來ノ諸條約ヲ參考シテ國際裁判所設置條約案ヲ作製スヘク其ノ裁判所ノ裁判官ハ各國共ニ二人以上ヲ出スコトヲ許サス且其ノ選舉ハ各國ノ提出セル候補者表中ヨリ平等ノ原則ニ依リ之ヲ行フヘキコト

(四) 本會ハ其國國際法學會其ノ他ノ助力ヲ以テ國際法法典ヲ作製セシムル爲常設委員會ヲ設クルコト

(五) 委任統治地域ニ於テハ(イ)商工業輸入税ニ關シ受任國民ト他ノ聯盟各國國民トヲ區別セサルコト(ロ)公租私權ノ享有行使殊ニ教育及土地所有ニ關シ人種上ノ區別ヲナササルコト(ハ)委任統治ヲ行フニ付政府ヲ補助スヘキ職制其ノ他ノ機關ヲ常設スルニ當リテ、土着民ノ代表者ヲモ其ノ内ニ加フルコト(英國案)

(二) 第四委員會

(六) 次回ノ國際労働會議ニ於テ労働爭議調停並労働者ノ事業經營參加制度ヲ目的トスル労働者雇主ノ混在機關設置案ヲ議セシムル様建議スルコト

(七) 國際聯盟内ニ現在ノ労働局ト同様衛生、産業、教育並化學ノ

三局ヲ設クルコト

(八) 義務教育年齢ヲ十四才ニ高メ其ノ後ニ於テモ青年期ノ間補習教育ヲ施スコト

國際聯盟内ニ「プロバガンダ」制度、教授學生労働者ノ相互交換制度中實行スヘキ機關ヲ設ケ以テ各國相互ノ了解ヲ計ルコト

九 各國協會ノ聯合假規定要領

各國協會ノ聯合ハ今回ノ會議ニ於テ正式ニ成立シ假規定可決セラレタルカ其要領左ノ如シ

(一) Union des Associations pour la Société des Nations

ハ各國既設ノ諸協會ヲ連合シテ國際聯盟規約ノ諸原則ノ改善ヲ圖リ且其適用ヲ監視スルヲ目的トスルコト

(二) 各國ハ一協會ニヨリ代表セラルヘク同協會ハ其ノ國ノ他ノ諸團體ヲ糾合スヘキコト

(三) 本部ヲ「ブラツセル」ニ置キ聯合ノ機關トシテ總會及理事會ヲ設クルコト

(四) 總會ハ理事會ノ召集ニ依リ開會シ各國代表者八十名ヲ超エサルコト

- (五) 理事會ハ各國二名宛ヨリ成リ各國協會及聯合總會ニ廻附スヘキ議題ヲ定メ總會ノ決議ヲ執行シ且豫算ノ決定其他一般ノ會務ヲ行フコト
- (六) 總會及理事會ノ表決權ハ各國一票タルヘキコト
- (七) 本部ノ一般的費用ハ各協會ニ於テ分擔スルコト
- 十 支那委員ノ提出案

附山東問題

支那側ハ己ニ第一回會議ヨリ支那國際聯盟協會ナルモノ、代表者ヲ出席セシメ第二回會議ニハ數種ノ決議案ヲ提出シテ其ノ中「國際聯盟加入國國民カ他國內ニ於テ財政上ノ特權ヲ得ルコトアルトモ該國政府ハ之ニ對シ外交上ノ支持ヲ與ヘサルヘシ」トノ決議ヲ通過セシメタルカ今回モ山東問題ニ關シ豫テ附屬書記載ノ如キ決議案ヲ提出シ準備會議

ニ於テ顧維鈞（支那側）同人並王北京大學教授外四名今回ノ會議ニ出席セリ）ヨリ同問題ハ世界平和ノ危殆ヲ招クモノナリトノ理由ヲ以テ再三同案ノ審理ヲ求メタルニ何れ委員ヨリハ「ヴェルサイユ」條約ノ決定ヲ以テ世界平和ノ危殆トナスハ不都合ナルコトヲ指摘シ又豫テ安達公使ヨリ白國協會會長「テカン」男（今回會議ノ議長）等ト懇談ヲ遂ケ置キタル爲同男ヨリモ今回會議ノ目的カ國際聯盟ニ歸スル一般問題ノ討論ニアルニ鑑ミ此ノ極ノ特殊問題ニハ觸レサル方然ルヘントノ理由ニテ支那側委員ノ要求ヲ却ヘ結局議案ヨリ之ヲ除クコト、ナレリ尙山東問題ニシテ討論セラルルコト、ナル場合ニハ日本側ヨリハ人權問題ヲ提議ノ積リナリシモ準備會議ニ於ケル右ノ形勢ニ鑑ミ是ニ見合スコト、ナレリ

附 屬 書

山東問題

山東問題ニ關シ支那國際聯盟協會ヨリ提出シタル決議案ハ「國際聯盟ノ原則ノ一特殊問題ニ對スル適用」ト題シ其ノ内容左ノ通

「戰爭若ハ戰爭ノ脅威ハ國際聯盟全體ノ利害關係事項ニシテ聯盟ハ國際平和擁護ノ爲適當有效ト認ムル措置ヲ執ルヘク國際平和若ハ各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂スルノ虞アル一切ノ事態ニ付聯盟總會又ハ理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナル所（不明）ナリ」今回ハ國際平和ノ促進並聯盟規約實施ヲ目的トスルコトニ鑑ミ又「ヴェルサイユ」條約第一五六條第一五七條及第一五八條ハ日本ノ利益ニ於テ然カモ支那ノ權利即チ極東ニ於ケル平和及良好ナル了解ノ利益ヲ考慮スルコトナク山東問題ヲ決定スルモノナルコトニ願ミ茲ニ左ノ通決議ス

「ブラッセル」會議ハ山東問題ノ決定ヲ以テ支那ニ對シ不正ニシテ且國際平和及各國間ノ良好ナル了解ヲ危クスルモノナリト認メ聯盟ノ正式成立ノ上ハ右決定條件ヲ改正スル爲聯盟理事會及總會ニ於テ直ニ措置ヲ執ルニ至ルヘキ様茲ニ其ノ希望ヲ聲明ス

B-0344

十一 日本委員ノ感想

今回ノ會議ニ付本邦委員ノ感想ヲ綜合スルニ

- (一) 本件聯合會議ハ民間ノ事業ナルモ各國知名ノ政治家學者ヲ包含シ居リ其ノ決議ハ自ラ各國ノ輿論ニ鈔ラス影響ヲ與フ可ク延テハ各國政府ニ於テモ之ヲ無視スルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テ日本側ニ於テモ常ニ之ト密接ナル接觸ヲ保チ世界ノ趨勢ヲ看取ルニ努ム可ク
- (二) 各國共國際聯盟問題ニハ甚大ノ注意ヲ拂ヒ之カ研究ノ目的ヲ以テ各種ノ團體ヲ組織シ世界恒久平和ノ爲獨リ自國輿論ノ啓發ノミナラス他國有識者トノ意見交換ニモ努メ居リ支那側スラ既ニ一種ノ協定ヲ設ケ班伍ニ洩レサラムコトヲ期シ居ルニ際シ反ツテ日本ニ有力ナル此ノ種ノ團體ナキコトハ恰モ我國民ニ於テ世界ノ平和問題ニ冷淡ナルカノ感ヲ與ヘ自然列強ノ同情ヲ失フニ至ルナキヤヲ恐ル(此ノ

諸ハ會議中英國側一委員ヨリモ復藏ナキ談話トシテ本邦委員ニ述ヘタルコトアリ)就テハ日本ニ於テ速ニ有力ナル民間ノ團體ヲ組織シ聯合會議ニ際シテハ世界平和又ハ人道問題等ニ付キ進テ議案ノ提出ヲナスコト有益ト認ム

(三) 今回ノ會議ヲ通シニ様ノ主張アリ

一ハ講和條約ニ基ク聯盟規約ノ實行ヲ先ニスヘシトスル穩和說ニシテ他ハ同規約ハ缺點多キヲ以テ一層「ナモクラチツク」ノ基礎ニ依リ國際組織ヲ實現スルノ趣旨ニテ其ノ改善ヲ計ル可シトスル急進論ナルカ兩者相争ヒタル結果大体ニ於テ穩和說勝ヲ顯シタリ但シ將來ハ急進論漸次有力トナリ來ルヤモ計リ難キ勢ナリ

(四) 今日ノ會議ハ前述ノ如ク政治上ノ特殊問題ニ觸ルルコトヲ避ケタルモ「ユニオン」即チ聯合ノ目的中ニハ聯盟諸原則ノ適用ヲ監視ス

ルコトヲモ含ミ居ルヲ以テ將來ノ會議ニハ特殊問題モ亦討議セラ
 ルコトトナルヘク殊ニ支那側ヨリ現ニ山東問題及理事會加入問題ニ
 付提案ヲ出シ居ル事情モアリ此等ニ對シテハ日本側ニ於テ今日ヨリ
 相當ノ對策ヲ講シ置クコト極メテ必要ト思ハル今回ハ幸ヒ秋月曠託
 外數氏當方面ニアリタル爲メ出席方取計フコトヲ得タルモ次回ノ羅
 馬會議ニハ其ノ時機ニ依リ岡氏等出席出來難キヤモ知レサルニ付日
 本ニ於テ成ルヘク速ニ相當ノ協會組織セラレ少クトモ六七名ノ委員
 出席シ得ル様豫メ手筈シ置クコト極メテ必要ト存ス（此種ノ會議ニ
 ハ大概數個ノ委員會設ケラルル例ナルニ依リ此等委員會ニ出席シ得
 ル丈ノ人數ヲ要ス）就テハ政府ニ於テ其ノ邊御考量ノ上民間ノ計畫
 ニ對シ必要ノ指導獎勵ヲ與ヘラレ殊ニ支那側ニ對スル對策並豫メ當
 方面ヘ相當ノ人物派遣ノコトニハ特ニ御配慮置キ相成ル様致シ度シ

十二 次回會議

次回會議ハ明年三四月頃羅馬ニ開會ノコト

國際聯盟協會ニ關スル松井大使ノ意見

目次

一 國際聯盟協會ノ將來ニ關スル豫想

二 日本ト國際聯盟協會

三 日本國際聯盟協會設立ニ關スル氣付要目

(甲) 組織

(乙) 目的

(丙) 調査部設置

四 英國協會幹部

B-0344

一 國際聯盟協會ノ將來ニ關スル豫想

國際聯盟ノ將來ニ就テハ本國上院ニ於ケル批准問題行惱ミノ事情ニ
顧ミ今日ヨリ未ダ的確ナル豫想ヲ下シテ「ヴェルサイユ」條約ニ依
リテ定マレル國際聯盟組織ニ對シ將來十分積極的ニ盡カスルニ至ル
ヘキヤ疑無キ能ハス一方英、佛、伊、白其ノ他歐洲諸國ニ在リタル
夙ニ有力ナル學者政治家等ニ依リ盛ニ國際聯盟ノ成立並發達ヲ目的
トスル團體組織セラレ最近此等團體ノ國際聯合成立スルニ至リタル
次第ハ先ニ報告ノ通ナルカ右各國ノ團體ハ民間ノ事業ニ屬シ聯合會
モ亦各國政府ト直接ノ關係ナキコト勿論ナルモ之カ關係者ノ政治上
並社會上ノ地位ニ鑑ミ各國輿論ノ上ニ今後相當ノ勢力ヲ有スルコト
トナルヘキハ逆瞻スルニ難カラス殊ニ國際聯盟愈々成立ノ上ハ其ノ
背後ニ立チテ自然之ニ影響ヲ及ホシ各國モ或種ノ問題ヲ聯盟ノ議ニ

上サムトスルニ先チ據メ副記協會聯合會ニ提議シテ一般輿論ノ喚起
並發ニ努ムルニ到ルヘシト思考ス

二 日本ト國際聯盟協會

以上述ヘタル如キ理由ニ依リ日本側ニ於テモ常ニ前記ノ如キ運動ト緊密ナル接觸ヲ保チ一ハ以テ各國ノ側面的劃策ト世界ノ視聽トヲ測知シ又一ハ以テ日本國民ニ世界平和ノ爲貢獻セムトスルノ熱心アルコトヲ示スコト機宜ニ適スヘシト思考ス而シテ聯盟協會聯合會ハ各國協會ニ限リ參加シ得ヘキ仕組ニテ過般ノ「ブラツセル」會議ニモ日本側ハ協會組織中ナリトノ名義ヲ以テ出席シ得タル次第ニテ明年羅馬ニ開カルヘキ第四回會議ニ參列ノ爲ニハ夫レ迄ニ之カ組織ヲ實現スルノ必要アリ就テハ此ノ種ノ協會設立ニ付政府ニ於テ必要ノ指導補助ヲ與ヘラルル様致シ度シ

三 日本國際聯盟協會設立ニ關スル氣付要目

以上述ヘ來リタル所ニ依リ日本ニ於ケル右協會ノ設立ニ關シ氣付ノ要點左ノ如シ

(甲) 日本協會ハ萬國協會聯合會ノ一員トシテ海外ニ充分ノ信用權威ヲ有スルカ爲ニハ我國ノ政治、學術、思想、實業、操觚、軍事等各方面ノ有力者ヲ網羅シ且其ノ財政モ強固ナルヲ要スニ依リ一切黨派的色彩ヲ帶ヒサルコト並將來漸次澎張シ得ル様組織ヲ定ムルコトニ留意セサルヘカラン

(乙) 本協會ノ目的ニ關シテハ例ヘハ國際聯盟ノ發達ヲ企圖シ國際法ノ原則ヲ尊重シ各國國民ノ交通ノ自由、人種ノ平等、思想ノ融和ヲ促進シテ國際協力ノ美風ヲ助成スト云フヲ如ク世界人類ノ恒久平和ニ對スル理想ノ標榜ニ加味スルニ日本國ハ其ノ立場ヲ以テシタルモノ適當ト

思考セラル

(丙)

本協會ニハ調査部ヲ置キ例ヘハ

(一) 國際聯盟組織及新規加盟

(二) 國境及委任統治

(三) 仲裁裁判審査及解釋

(四) 軍備制限及國際軍備

(五) 思想融和及國際協力

(六) 國際労働、衛生及交通

等ノ諸事以テ平生充分研究ヲ遂ケ一方國際會議ニ對スル準備ヲナス
ト同時ニ他方聯盟ニ關スル思想智識ヲ我國民ニ普及セシムルニ方ム
ルコト有益ト思ヘル

尙此種協會ノ必要ハ講和會議中歐洲方面ニ在リタル本邦有志ノ認ム

ル處トナリ大正八年四月、五月頃再三協議ヲ重ネタルコトアリ

B-0344

四 英國協會幹部

英國協會ハ「グレイ」卿ヲ總裁、「ロイド、ジョージ」、「バルフォア」
「アスギス」ヲ名譽總裁、「ロード、セシル」ヲ理事長トシ其
ノ他ノ朝野名士數十名ヲ幹部ニ網羅セリ

B-0344

大日本國際聯盟協會會則

第一章

目的及事業

第一條 本會ハ國際聯盟規約ノ實施及改善ニ關スル攻究竝國際聯盟ニ關スル輿論ノ啓發ヲ以テ其ノ目的トス

第二條 本會ハ各國ニ於ケル國際聯盟協會又ハ聯盟ニ關スル私的の代表團體ノ開催スル國際聯合會議ニ日本ヲ代表ス

第三條 本會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 國際聯盟規約ニ關スル研究及調査
- 二 聯盟精神ノ宣傳ヲ目的トスル講演會ノ開催及印刷物ノ發行
- 三 本會ト目的ヲ同シクスル内外諸國團體トノ連絡
- 四 國際聯合會議ニ代表者派遣

B-0344

大日本國際聯盟協會會則

第一章

○三月五日迄
東京會場

攻究並國際聯盟ニ關

ニ關スル私的代表團

開催及印刷物ノ發行

トノ連絡

B-0344

第二章 名稱及位置

第四條 本會ハ大日本國際聯盟協會ト稱ス

第五條 本會ハ事務所ヲ。。。。。ニ置ク

第三章 會計

第六條 本會ノ經費ハ會費及寄附金ヲ以テ之ヲ支辨ス

第七條 本會ノ會費ハ年額金〇圓トス

第四章 會員

第八條 本會ノ趣旨ニ贊同スル丁年以上ノ男女ニシテ會員〇名以上ノ紹介アリタル者ヲ會員トス

第五章 役員

第九條 本會理事〇名ヲ置キ理事會ヲ組織シ會務ヲ處理セシム

理事會ノ議事ハ出席理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第十條 理事ハ通常總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互舉ス

理事ノ年期ハ〇年トス但シ再選スルコトヲ得

第十一條 理事會ハ會長一名副會長〇名ヲ會員中ヨリ選舉ス

會長ハ理事會ヲ代表シ總會、理事會其ノ他ノ諸集會ヲ召集シ

之ヲ議長トナル

副會長ハ會長事故アルトキ之ヲ代表ス

第十二條 理事會ハ理事中ヨリ會計監督〇名ヲ互選ス

第十三條 理事會ハ幹事長及幹事若干名ヲ指名シ庶務ニ當ラシムルコト

ヲ得

第六章 總裁及副總裁

第十四條 本會ハ總會ノ決議ニ依リ總裁及副總裁ヲ推戴スルコトアルヘ

B-0344

第七章 總會

第十五條 本會ハ毎年一回通常總會ヲ開ク

通常總會ニ於テハ會務ニ關スル理事會ノ報告、新事業ノ決定、理事ノ選舉其ノ他必要ノ事項ヲ決議ス

第十六條 理事會ノ決議又ハ會員十分ノ一以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ要ス

第十七條 總會ノ議事ハ出席會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第八章 會則ノ變更

第十八條 本會則ハ總會ニ於ケル出席會員三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

目的

本會ハ國際聯盟ノ趣旨貫徹ヲ以テ其ノ目的トス

本會ハ國際聯盟ノ趣旨宣傳ヲ以テ其ノ目的トス

本會ハ國際聯盟ニ關スル研究及宣傳ヲ以テ其ノ目的トス

本會ハ國際聯盟ニ依ル世界恒久ノ平和確保ヲ期シ之カ爲聯盟ノ趣旨宣傳及聯盟規約ノ研究ヲ以テ其ノ目的トス

本會ハ國際聯盟ニ關スル各般ノ研究ト之カ精神ノ普及トヲ以テ其ノ目的トス

本會ハ國際聯盟規約ノ實施及改善ニ關スル研究ト聯盟ノ對スル輿論ノ啓發トヲ以テ其ノ目的トス

四月二十九日ノ理事會ニ於テ認識スヘキ事項

一 會計ニ關スル件

（全會）井上俊

吉村 俊

二 專業經營ノ機關トシテ總務部調査部及宣傳

部

（同）松田 隆
（同）山崎 隆
（同）林 隆

部等ヲ置クノ案ニ付審議ノ件

三 事務所ニ關スル件

四 幹事及有給職員ニ關スル件

五 第一回通常總會開催ニ關スル件

六 總裁及副總裁ニ關スル件

拜啓陳者來ル四月二十九日午後三時ヨリ

築地精養軒ニ於テ理事會開催致度候ニ付

御來車相煩申度此段得貴意候 敬具

大正九年四月二十四日

國際聯盟協會々長 澁澤 榮 一

殿

追而御出席ノ有無乍御手数數同封はかき
ニテ御返事被下度候

國際聯盟協會會則案

第一章 名稱及位置

第一條 本會ハ國際聯盟協會ト稱ス

第二條 本會ハ事務所ヲ東京ニ置ク

第二章 目的及事業

第三條 本會ハ國際聯盟ノ精神達成ヲ以テ其ノ目的トス

第四條 本會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 國際聯盟ニ關スル研究及調査

二 講演會ノ開催及印刷物ノ刊行

三 本會ト目的ヲ同シクスル内外諸團體トノ連絡

四 國際聯合會議ニ代表者ノ派遣

五 其ノ他理事會ニ於テ適當ト認ムル事業

第三章 會員及客員

第五條 本會ノ趣旨ニ賛同スル日本人ニシテ會員二名以上ノ紹介アリタルモノヲ會員トス

外國人ハ理事會ノ決議ニ依リ之ヲ客員トナスコトヲ得

第四章 役員

第六條 本會ニ會長一名、副會長三名、理事十二名並幹事及評議員若干名ヲ置ク

第七條 會長、副會長、理事及評議員ハ通常總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選シ其ノ任期ヲ一年トス但シ再選スルコトヲ得

幹事ハ理事會之ヲ選任ス

第八條 會長ハ總會、理事會及評議員會ヲ招集シ之ヲ議長トナル

副會長ハ會長事故アルトキ之ヲ代理ス

第九條 會長、副會長及理事ハ理事會ヲ組織シ會務ヲ處理ス但シ重要會務ニ付テハ評議員會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

理事會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第十條 評議員ハ評議員會ヲ組織ス

理事會ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ評議員五分ノ一以上ノ請求アルトキハ評議員會ヲ開ク

トヲ要ス

評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

トヲ要ス

第五章 總裁及名譽總裁

第十一條 本會ハ總會ノ決議ニ依リ總裁及名譽總裁ヲ置クコトアルヘシ

第六章 總會

第十二條 本會ハ毎年一回通常總會ヲ開ク

通常總會ニ於テハ會務ニ關スル理事會ノ報告、豫算ノ決定、役員ノ選舉其ノ他必要ノ事項ヲ決議ス

第十三條 理事會ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ會員十分ノ一以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開ク

第十四條 總會ノ議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第七章 會計

第十四條 本會ノ經費ハ會費及寄附金ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十六條 本會ノ會費ハ年額金三圓トス但シ一時金五十圓以上ヲ納付スルモノハ會費ヲ要セス

第八章 會則ノ變更

第十七條 本會則ハ總會ニ於ケル出席會員三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

附則

本會第一回役員ハ大正九年四月二十二日發起人會ヲ以テ之ヲ定ム

大正九年四月二十三日 國際聯盟協會發起人會ニ於ケル

座長 齋藤男爵ノ挨拶

只今私ニ座長ヲ御引受致ス様ニトノ御話ヲ御座イマシタカ元來私ハ國際
聯盟ニ付テ深イ研究ヲ遂ケタ譯テモナク又之ニ關シテ詳シイコトモ存シ
マセヌノヲ御引受致スニ大ニ躊躇スル次第ヲ御座イマス
尤モ私トシテモ全然此ノ方面ノ考ヲ持タナカウタノテハナク戰亂以來武
力以外ニ何カ學問的又ハ精神的ニ人類ノ進歩ニ貢獻スル方法ハ無イモノテア
ロウカトノ希望ヲ願ケ乍ラモ抱イテ居リマシタ我國カラ講和使節カ巴里
ヘ出發セラレマシタ頃ハ私ハ恰モ病中テアリマシタカ巴里田君御崎君ナト
ト探索的ニ此ノ會議ノ結果何物カヲ得ルコトハナキカト考ヘテ居リマシ
タ我國カラハ牧野男初メ立派ナ方々カ大勢御出掛ケニナリマシタカ之ハ
主トシテ物質上ノコトヲ或ル部分ハ精神的ノコトモアリマスケレトモ若

シ戰後精神的ノ點ニ於テモ何等カノ進歩ヲ見ルコトカ無イ様テアルナラ
ハ寧ロ文明ノ進歩ハ人類ノ幸福ノ爲ニ禍スルコトトナルノテハアルマイ
カ文明ノ利器ヲ用ヒテ相殺戮スルコトノミヲ專ラスル様テハ神カ人ヲ作
ツタ目的ニ反スル譯テハアルマイカト古イ考カモ知レマセヌカソウ云フ
考ヲ抱イテ居リマシタソレテ姉崎君カ出掛ケラレル時同君ヘモ自分ノ説
ノ外ニ廣ク此ノ方面ニ關スル他人ノ説ヲ聽イテ參ラレル様ニトノ希望ヲ
述ヘテ置キマシタカソレハ唯希望ニ止マルノミテアリマシタ
巴里講和會議ノ結果ハ只今添田君ノ申サレマシタ通り吾ハノ豫期ヨリモ
足並カ遅イ様ニ思ハレマスカ之ハ到底致シ方ノ無イ事テアリマセウ又他
ノ總テノ國カ國際聯盟ニ關シテ充分ナル研究ヲ遂ケツツアル際其ノ完全
ナル成立ヲ望ム爲我國ニ於テモ場合ニ依ツテハ一ノ組織ヲ作り之カラ外
國二人ヲ出シ又ハ調査ヲスルト云フ様ナコトノ必要ナコトハ大体考ヘテ

B-0344

居リマシタ然シ私ハ其ノ筋ノコトニ付學問モ無ク研究モ遂クテ居ナイ門
外漢テアルノテ今申上ケタ様ナコトヲ充分研究セラレテ居ル方々ノ間ニコ
シテ金ノ成立アレカシト願フノミテアリマシタソレテ近頃コノ國際聯盟
協會ノ成立ノ經過ヲ承ツテ喜ンテ本日出席テ參ツタ次第テ御座イマス自
テ大變必要タト申シ乍ラ今迄一向研究モ盡力モシナイノハ言行不一致ト
ノ御叱リカ在ルカモ分リマセヌカ自分ノ智識力足ラス齒ニ合ハヌト考ヘ
マシタノテ智者學者ノ方々ノ御高配ヲ俟ツノ外ハ無イト考ヘテ居タ次第
テ御座イマス

今日參上致シマシテココニ座長ノ席ヲ汚シマスコトハ甚々名譽ト存シマ
スカ一方又迷點トモ存セラレマス然レ當初カラ私ノ抱イテ居リマシタ希
望ハ諸君ノ驥尾ニ附シテヤリタイ否更ニソレヨリモ強イモノカアルノテ
アリマスカウ御推舉ニ從ヒ年長者トシテ座長ノ席ヲ汚シマス誠事ノ進行
ハ諸君ニ於テ然ル可ク御願致シマス (拍手)

大正九年四月二十三日國際聯盟協會發起人會ニ於ケル

添田博士ノ開會辭

只今ヨリ國際聯盟協會發起人會ヲ開キマス

御承知ノ如ク今度ノ巴里講和會議ノ結果トシテ成立致シマシタ國際聯盟
ハ國際平和ノ完成ト國際協力ノ促進トヲ目的トシテ居ルノテアリマスカ
未タ完全ナルモノトハ申シ難ク現ニ某大國ノ如キハ未タ之ニ對シテ明カニ
加盟ノ手續ヲ履ムテ居ナイノテアリマス、サレハト言ツテ聯盟ノ目的及
精神ヲ没却スルコトハ出來ナイノテアリマシタ否斯クアレハコソ却ツテ
現在ノ不完全ナル聯盟ノ組織ヲ改善シ其ノ目的ノ達成ニ努メナケレハナ
ラヌ次第テ御座イマス

我國ハ由來正義ト平和トヲ念トシテ今日ニ到リマシタ從テ右ノ如キ聯盟
ノ精神ハ即チ日本從來ノ國是ト相合致スルモノト言フヘク殊ニ我國ハ聯

B-0344

盟規約ノ調印國トシテ加之五大國ノ一員トシテ聯盟ノ内ニ在ツテ重要ナル地位ヲ占ムル點ヨリ言フモ之カ精神ノ達成ハ我國ノ一大責務デアルト考ヘラレマス而シテ此ノ事ハ當ニ政府當局ノ一任スヘキモノテハナク全國民ノ努力ニ依ツテ爲サレネハナラヌノデアリマス
サレハ既ニ昨年講和會議開催中巴里ニ集マリマシタ本邦有志者ノ間ニ我カ國ニ於テモ國際聯盟協會ヲ設立スルノ議カ成立シ我國モ他諸國同様聯盟協會ヲ有スルコトニナリマシタカ其ノ後内地ニ於テモ各種ノ團體ニ於テ夫々同様ノ協會ヲ設立スルノ企カ段々試ミラレルニ到リマシタソコテ之等各種ノ計劃ヲ打テ一丸トシ眞ニ日本ヲ代表スルニ足ル完全ナル國際聯盟協會ヲ組織スルノ議カ先般來起リマシテ各方面ノ有志ノ方々ト數回ノ相談會ヲ開キ皆様方發起人タルコトヲ承諾下サツタ方ノ御集リヲ願フテ本夕此ノ會台ヲ開クニ到ツタ次第ヲ御座イマス

コレヲ我國モ五大國ノ一タルニ恥チサルノ實ヲ備ヘ世界平和ニ貢獻スルニ於テ他國ノ班ニ入ルコトヲ得ルカト考ヘラレマストウソ其ノ御舍ミテ本夕ハ諸君ノ腹藏ナキ御意見ヲ伺ヒ本協會ノ組織完成ヲ見ルニ到ランコトヲ希望シテ止マヌ次第ヲ御座イマス



發
起
人
名
簿
(イロハ順)

他シ四月二十二日夕刻迄ニ承諾ノ旨通知アリタル分

B-0344

米田 實	芳澤 謙吉	吉坂 俊三	吉野 作造	吉井 幸藏	龜井 陸郎	金子 堅太郎	神戸 正雄	神田 乃武	川島 信太郎	河上 哲太	勝田 銀次郎
副島 道正	伊達 源一郎	高石 眞五郎	高木 壬太郎	高楠 順次郎	高橋 作衛	田川 大吉郎	田村 新吉	田中 萃一郎	田中館 愛橋	田中 都吉	立 作太郎
長岡 春一	長島 隆二	長尾 半平	永井 柳太郎	奈良 武次	中村 進午	土谷 元作	頭本 元貞	綱島 佳吉	鶴見 左吉雄	會我 祐邦	添田 壽一

濱口 雄幸	壇原 正直	井上 準之助	一木 喜徳郎	犬塚 勝太郎	伊藤 米次郎	伊集院 彦吉	石塚 英藏	石村 誠一	石川 安次郎	石井 菊次郎
戸水 寛八	島居 赫雄	友枝 高彦	穂積 重遠	本田 増次郎	本多 熊太郎	仁井田 益太郎	二宮 治重	林 權助	早川 千吉郎	花井 卓藏
加藤 直士	加藤 恆忠	落合 謙太郎	岡 實	岡野 敬次郎	大谷 嘉兵衛	大庭 景秋	太田 正孝	大久保 利武	珍田 捨巳	千賀 鶴太郎

(イロハ順)

B-0344

村山龍平	山室軍平	深井英五
植原悦次郎	山本信博	福岡秀猪
植村正久	山科禮藏	福井菊三郎
上田碩三	築田次郎	小崎弘道
上田貞次郎	松田道一	小村俊三郎
内田嘉吉	松岡洋右	小山完吾
野村淳治	松水安右衛門	小村欣一
野村吉三郎	松井慶四郎	近藤廉平
野村龍太郎	松村眞一郎	後藤新平
黒岩恩六	増田義一	五來欣造
窪田文三	船越光之丞	遠藤源六
山川健次郎	藤村義郎	海老名彈正

4

西園寺公望	光永昌郎	信夫淳平
安達峰一郎	三宅米吉	志賀重昂
秋月左都夫	南弘	志立鐵二郎
秋元俊吉	湯原元一	志村源太郎
跡部定四郎	木下友三郎	志田鉦太郎
有賀長文	木村銳市	斯波貞吉
荒井賢太郎	澤柳政太郎	鹽澤昌貞
荒木實三郎	阪谷芳郎	島門三郎
姉崎正治	佐藤昌介	水町袈裟六
寺野精一	佐分利貞男	美濃部達吉
寺島誠一郎	佐々木登一	宮岡恆次郎
江口定修	佐野善作	官部毅治

B-0344

幣原喜重郎
須田利信

四條隆英

平山成信

日置謙仙

元田作之進

望月小太郎

森賢吾

關和知

鈴木梅四郎

末廣重雄

杉村廣太郎

杉原榮三郎

5

姉崎正治氏推選

(順序不同)

近衛文磨

戸田海市

B-0344

國際聯盟協會

目次

第四回國際聯盟協會聯合總會會議豫想

三月二十五日(?) 巴里ニ於テ佛「ブルヂョア」伊「フェルラ
ロ」白「デカン」及英代表者ノ間ニ決定セラレタル處トシ
テ「デカン」氏ヨリ安達公使ヘノ内話ニ據ル

一時日

二場所

三議題

一時日

千九百二十年六月四日ヨリ五日間

二場所

羅馬

三議題

(甲) 豫定議題

(イ) 「フラツセル」ニテ假決定セル聯合會定款ノ追認ニ關スル
件

(註) 各國聯盟協會聯合會定款假確定案要領

(一) 名稱 Union des Associations pour la Société des Nations

(二) 目的 各國既設ノ諸協會ヲ連合シ聯盟規約ノ諸
原則ノ改善ヲ圖リ且其ノ適用ヲ監視ス

B-0344

- (三) 各國協會ノ代表 各國ハ一協會ニ依リ代表セラレ該協會ハ其ノ國ニ在ル他ノ諸團體ヲ糾合スヘシ
- (四) 本邦所在地 「ブラッセル」
- (五) 機關 總會及理事會ヲ設ク
- (六) 總會 理事會ノ招集ニ依リ開會シ各國代表者ハ十名ヲ超エサルコトヲ要ス
- (七) 理事會 各國二名宛ヨリ成リ
- (イ) 各國協會及聯合總會ニ廻付スヘキ議案ヲ決定シ總會ノ決議ヲ執行シ
- (ロ) 總會ノ決議ヲ執行シ
- (ハ) 豫算ノ決定其ノ他一般ノ會務ヲ行フ
- (八) 表決權 總會及理事會ノ表決權ハ各國一票トス

- (九) 經費 本部ノ一般的費用ハ各協會ニ於テ分擔ス右ニ歸スル英國協會ノ意見(羅馬總會ニ提議ノ予定)
- (一) 聯合會加入ノ資格 (イ)現ニ國際聯盟員タル國(ロ)聯盟規約附屬書ニ列舉セラレタル國(ハ)若ハ聯合會員ノ過半數ニ依リ承認セラレタル國ヲ代表スル協會ニ限ルヘシ
- (二) 本部所在地 聯盟本部ト同一地ニ置クヘシ
- (三) 理事會 各國協會各三名宛ヲ出シ三人ノ意見一致セサルトキハ多數決ニヨリ該協會ノ意見ヲ定ムヘシ
- (四) 總會並理事會ノ用語 英語及佛語トシ常ニ必ス通譯ヲ用フヘシ

B-0344

(ロ) 國際聯盟思想ヲ普及セシムル爲メ各國ニ於テ行フヘキ宣傳方法ニ關スル件

(ハ) 聯盟規約ノ修正ノ(?)件

(ニ) 軍備制限並國際仲裁裁判所ニ關スル件

(注意) 尙前回「ブラッセル」ニ於ケル第三回聯合總會ニ

於テ

(一) 理事會永久會員増員ニ關スル修正案(支那提出)

(二) 各國ノ權利義務ノ宣言ニ關スル案(佛國提出)

ハ之ヲ第四回總會ニ提出スルコトナリ居レリ

(第三回聯合總會會議調書八ノ(甲)ノ(二)及(三)參照)

(乙) 議題ノ確定

今回ノ會議ニ於テハ終始(?)決議ノ實行ヲ期スル爲メ前記以外ノ事項ハ成ルヘク議題トセサルコトナレリ

但シ確定的日程ハ總會開會前各國協會代表者相會シテ之ヲ

決定スル筈ナリ

(註) 內協議會ニ關スル英國協會ノ意見

各國協會各二名宛代表者ヲ出シテ假理事會ヲ組織

シ羅馬總會前巴里ニ會合シ委細ノ準備ヲ爲サシムル

ヲ適當ト認ム

國際聯盟協會

目次

第四回國際聯盟協會聯合總會會議豫想

三月二十五日(?) 巴里ニ於テ佛「ブルヂョア」伊「フェルラ
ロ」白「デカン」及英代表者ノ間ニ決定セラレタル處トシ
テ「デカン」氏ヨリ安達公使ヘノ内話ニ據ル

一時日

二場所

三議題

一時日

千九百二十年六月四日ヨリ五日間

二場所

羅馬

三議題

(甲) 豫定議題

(イ) 「プラットフォーム」ニテ假決定セル聯合會定款ノ追認ニ關スル
件

(註) 各國聯盟協會聯合會定款假確定案要領

(一) 名稱 Union des Associations pour la Société des Nations

(二) 目的 各國既設ノ諸協會ヲ連合シ聯盟規約ノ諸

原則ノ改善ヲ圖リ且其ノ適用ヲ監視ス

B-0344

- (三) 各國協會ノ代表 各國ハ一協會ニ依リ代表セラレ該協會ハ其ノ國ニ在ル他ノ諸團體ヲ糾合スヘシ
- (四) 本邦所在地 「ブラッセル」
- (五) 機關 總會及理事會ヲ設ク
- (六) 總會 理事會ノ招集ニ依リ開會シ各國代表者ハ十名ヲ超エサルコトヲ要ス
- (七) 理事會 各國二名宛ヨリ成リ
- (イ) 各國協會及聯合總會ニ廻付スヘキ議案ヲ決定シ總會ノ決議ヲ執行シ
- (ロ) 總會ノ決議ヲ執行シ
- (ハ) 豫算ノ決定其ノ他一般ノ會務ヲ行フ
- (八) 表決權 總會及理事會ノ表決權ハ各國一票トス

- (九) 經費 本部ノ一般的費用ハ各協會ニ於テ分擔ス右ニ關スル英國協會ノ意見(羅馬總會ニ提議ノ予定)
- (一) 聯合會加入ノ資格 (イ) 現ニ國際聯盟員タル國 (ロ) 聯盟規約附屬書ニ列擧セラレタル國 (ハ) 若ハ聯合會員ノ過半数ニ依リ承認セラレタル國ヲ代表スル協會ニ限ルヘシ
- (二) 本部所在地 聯盟本部ト同一地ニ置クヘシ
- (三) 理事會 各國協會各三名宛ヲ出シ三人ノ意見一致セサルトキハ多數決ニヨリ該協會ノ意見ヲ定ムヘシ
- (四) 總會並理事會ノ用語 英語及佛語トシテ常ニ必ス通譯ヲ用フヘシ

B-0344

(ロ) 國際聯盟思想ヲ普及セシムル爲メ各國ニ於テ行フヘキ宣傳方法ニ關スル件

(ハ) 聯盟規約ノ修正ノ(?)件
(ニ) 軍備制限並國際仲裁裁判所ニ關スル件

(注意) 尙前回「ブラッセル」ニ於ケル第三回聯合總會ニ於テ

(一) 理事會永久會員増員ニ關スル修正案(支那提出)

(二) 各國ノ權利義務ノ宣言ニ關スル案(佛國提出)

ハ之ヲ第四回總會ニ提出スルコトナリ居レリ
(第三回聯合總會會議調書八ノ(甲)ノ(二)及(三)參照)

(乙) 議題ノ確定

今回ノ會議ニ於テハ終始(?)決議ノ實行ヲ期スル爲メ前記以外ノ事項ハ成ルヘク議題トセサルコトナレリ

但シ確定的日程ハ總會開會前各國協會代表者相會シテ之ヲ決定スル筈ナリ

(ハ註) 內協議會ニ關スル英國協會ノ意見
各國協會各二名宛ノ代表者ヲ出シテ假理事會ヲ組織シ羅馬總會前巴里ニ會合シ委細ヲ準備ヲ爲サシムルヲ適當ト認ム

B-0344

國際聯盟協會

目次

第四回國際聯盟協會聯合總會會議豫想

三月二十五日(?) 巴里ニ於テ佛「ブルヂョア」伊「フェルラ
ロ」白「デカン」及英代表者ノ間ニ決定セラレタル處トシ
テ「デカン」氏ヨリ安達公使ヘノ内話ニ據ル

- 一 時日
- 二 場所
- 三 議題

一時日

千九百二十年六月四日ヨリ五日間

二場所

羅馬

三議題

(甲) 豫定議題

(イ) 「ブラッセル」ニテ假決定セル聯合會定款ノ追認ニ關スル
件

(註) 各國聯盟協會聯合會定款假確定案要領

- (一) 名稱 Union des Association pour la Société des Nations
- (二) 目的 各國既設ノ諸協會ヲ連合シ聯盟規約ノ諸
原則ノ改善ヲ圖リ且其ノ適用ヲ監視ス

B-0344

- (三) 各國協會ノ代表 各國ハ一協會ニ依リ代表セラレ該協會ハ其ノ國ニ在ル他ノ諸國体ヲ糾合スヘシ
- (四) 本邦所在地 「ブラッセル」
- (五) 機關 總會及理事會ヲ設ケ
- (六) 總會 理事會ノ招集ニ依リ開會シ各國代表者ハ十名ヲ超エサルコトヲ要ス
- (七) 理事會 各國二名宛ヨリ成リ
- (イ) 各國協會及聯合總會ニ廻付スヘキ議案ヲ決定シ總會ノ決議ヲ執行シ
- (ロ) 總會ノ決議ヲ執行シ
- (ハ) 豫算ノ決定其ノ他一般ノ會務ヲ行フ
- (八) 決議 總會及理事會ノ表決權ハ各國一票トス
- (九) 經費 本部ノ一般的費用ハ各協會ニ於テ分擔ス右ニ關スル英國協會ノ意見(羅馬總會ニ提議ノ予定)
- (一) 聯合會加入ノ資格 (イ) 現ニ國際聯盟員タル國 (ロ) 聯盟規約附屬書ニ列舉セラレタル國 (ハ) 若ハ聯合會員ノ過半數ニ依リ承認セラレタル國ヲ代表スル協會ニ限ルヘシ
- (二) 本部所在地 聯盟本部ト同一地ニ置クヘシ
- (三) 理事會 各國協會各三名宛ヲ出シ三人ノ意見一致セサルトキハ多數決ニヨリ該協會ノ意見ヲ定ムヘシ
- (四) 總會並理事會ノ用語 英語及佛語トシ常ニ必ス通譯ヲ用フヘシ

B-0344

(ロ) 國際聯盟思想ヲ普及セシムル爲メ各國ニ於テ行フヘキ宣傳方法ニ關スル件

(ハ) 聯盟規約ノ修正ノ(?)件

(ニ) 軍備制限並國際仲裁裁判所ニ關スル件

(注意) 尙前回「ブラッセル」ニ於ケル第三回聯合總會ニ於テ

(一) 理事會永久會員増員ニ關スル修正案(支那提出)

(二) 各國ノ權利義務ノ宣言ニ關スル案(佛國提出)

ハ之ヲ第四回總會ニ提出スルコトナリ居レリ

(第三回聯合總會會議調書八ノ(甲)ノ(二)及(三)參照

(乙) 議題ノ確定

今回ノ會議ニ於テハ終始(?)決議ノ實行ヲ期スル爲メ前記以外ノ事項ハ成ルヘク議題トセサルコトナレリ

但シ確定的日程ハ總會開會前各國協會代表者相會シテ之ヲ決定スル筈ナリ

(註) 內協議會ニ關スル英國協會ノ意見

各國協會各二名宛ノ代表者ヲ出シテ假理事會ヲ組織シ羅馬總會前巴里ニ會合シ委細ノ準備ヲ爲サシムルヲ適當ト認ム

白耳義國際聯盟協會

大正九年二月二十八日

「ブリュッセル」ニ於テ

ユニヴェルシタスベリ

秋 月 閣 下

拜啓陳者「ブリュッセル」會議及聯合規約假決議ノ決定ニ從ヒ貴下協會ノ組織確定ノ有無ニ付御通報相仰度若シ組織済ナルニ於テハ國際聯盟ノ思想宣傳ノ爲設立セラレタル總テノ協會ノ聯合「フエデラシオン」ニ對シ手續方聯合ノ規約ニ從ヒ請求致度尙「ブリュッセル」ニ於テ貴下カ假表決セラレタル規約ヲ貴下ノ協會ニ於テ承認セラレタキ否ヤモ承知致度若シ或點ニ付表決ヲ留保セラルルニ於テハ其ノ如何ナル點ナルヤモ併通報相成度將又聯合ノ理事會ニ派遣セラルル貴下協會ノ常置代表者二名ノ氏名及資格御通知相煩度右御依頼迄此段申進候 敬 具

國際聯盟協會聯合規約

第一章

聯合ノ目的及組織

第一條 國際聯盟協會聯合ハ國際聯盟ノ基礎的規約ニ規定スル原則ノ改善ヲ圖リ且其ノ適用ヲ期スルカ爲設定セラレタル諸協會ヲ集合シテ協同的行動ニ出テシムルコトヲ以テ其ノ目的トス

第二條 聯合ニ於テ各國ハ單一協會ノミニ依リ代表セラルヘク右協會ハ其ノ國ノ他ノ團體ヲ糾合スルコトヲ得ヘシ

前記ノ協會ハ其ノ自治ヲ保持ス

第三條 聯合ノ本部ハ之ヲ「ブリュッセル」ニ置ク聯合ノ機關ハ總會及理事會トス

第二章

B-0344

總會

第四條 聯合ノ總會ハ理事會ノ招集ニ依リ之ヲ開ク

第五條 各總會ハ次回ノ會合ノ場所ヲ決定ス右ノ如キ指定ナキトキハ理事會之ヲ選定ス

第六條 各總會ハ其ノ事務局ヲ組織ス

第七條 總會ハ各國ノ團體代表者ニ依リ組織セテ其ノ右代表者ハ之ヲ一國十名ニ限リ各會期ノ開始前少クトモ十五日以内ニ其ノ名簿ヲ書記長ニ送付スルコトヲ要スヘシ

第八條 理事會ハ各國團體ノ調査及總會ノ議決ニ附スルニ關シ問題ノ表ヲ決定ス總會ハ此等ノ問題ヲ調査及討議ニ附セラルル順序ヲ決定ス

第九條 各協會ハ一切ノ問題ニ關シ豫メ準備的調査ヲ爲シ適當ナル時期ニ書記長ニ報告書ヲ提出ス

第十條 表決ハ國ニ依リ之ヲ行フ同一ノ國ニ屬スル代表者ハ口頭投票名簿ニ一團トシテ列記セラレ其ノ過半数決ニ依リ表決カ其ノ國ノ協會ノ表決タルモノトス

第三章

管理

聯合ノ理事會

第十一條 會議ノ理事會ハ各協會ヨリ出ス二名ヲ以テ之ヲ組織ス各協會ハ更ニ一名ノ補缺ヲ指名スヘク右補缺ハ代表者中ノ一人カ差支アル場合ニ之ニ代ルモノトス
表決ハ國ニ依リ之ヲ行フ

第十二條 理事會ハ

(イ) 調査、事業、公表及一般ニ常設事務局ノ事務ヲ監視シ

B-0344

- (ロ) 經常的財源ニ基ク豫算ヲ決定シ
- (ハ) 聯合ノ企圖スル目的ニ合シタル發議ヲ爲シ
- (ニ) 總會ヲ招集シ其ノ議事ニ附セラルル問題ヲ決定シ
- (ホ) 總會ノ決議ノ實行ヲ準備ス

第十三條 理事會ハ毎年理事會員中ヨリ會長一名副會長二名及會計主任一名ヨリ成ル事務局ヲ任命ス理事會(?)ハ其ノ會議中ヨリ次長(?)及會計主任ヲ任命シ且聯合ノ書記長及職員ヲ指名ス書記長ハ理事會(?)ノ議事ニ列シ發言權ヲ有ス

第十四條 事務局ハ理事會ノ權力及監督ノ下ニ置カレ會議ノ事務ヲ整理シ文書ヲ集中シ總會ノ事業ヲ準備シ其ノ他一般ニ理事會(?)ノ委任スル職務ヲ行フ

第十五條 事務局ノ一般經費ハ萬國郵便聯合總理局ノ定ムル經費分擔ノ

割合ニ從ヒ各國團體離出金ニ依リ之ヲ支辨ス

第十六條 理事會(?)ハ毎年一回其ノ會員中ヨリ二人ノ會計検査員ヲ任命ス右検査ノ後理事會ハ收支ノ決算ヲ承認ス

第十七條 會長ハ理事會員ノ招集ヲ必要トセサル程度ノ諸點ニ付理事會ヲ開クコトナク通信ニ依リ會員ニ諮問スルコトヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ決定ハ表衆ノ過半数ニ依リ表示セラレタル意見ニ從フモノトス

第十八條 本規則ニ規定セラレサル一切ノ場合ニ付テハ理事會之ヲ決定スヘシ

第十九條 理事會ニ於テ規約改正ニ關スル提議ヲ受理スルハ各會議ノ少クトモ三月以前タルコトヲ要ス

疑問ノ點

一 「コンセイユ」の「理事會」の「コンセイユ」の關係

二 「コンセイユ」の「ネラル」の任命スル二名ノ副會長ト「コンセイユ」ノ任命スル一名ノ「ヴァイス・プレジデント」ノ關係

三 書記長ノ出席スル「コンセイユ」

五月十日 國際聯盟協會協議會

B-0344

出席者

阪谷副會長

添田副會長

吉井理事

山川理事

松田理事

伊藤幹事

杉村幹事

B-0344

一、總裁及名譽總裁推戴ノ件

徳川公爵ニ總裁ヲ御依頼スル件ハ矢張り濹澤會長ヨリ直接御交渉相願フ
方可然トノコトニ議一決シ會長ノ全快ヲ待ツテ本件進涉セシムルコトト
ナレリ次ニ名譽總裁ハ總裁ノ決定シタル後總裁及會長ヨリ之ヲ御依頼ス
ルヲ順序トスヘキモ夫レ以前ト雖適當ノ機會アラハ右ノ趣ヲ西園寺大隈
兩侯爵ニ通シ以テ其ノ諒解ヲ經置クコト宜シカルヘシトノ意見モ出ツ本
件ハ添田副會長ニ御願スヘキコトトナレリ

二、第一回ノ通常總會ニ關スル件

本總會ハ實ハ發會式ト稱スヘキモノナレハ會長ノ全快ヲ待テ之ヲ舉行シ
總理、外相、總裁、名譽總裁及會長ニ演説ヲ請ヒ且願ク之ヲ海外ニ打電
スルコトニ決セリ尙總理及外相ニ對シテハ松田理事及伊達幹事ヨリ
五月二十日ニ總會開催ノ旨ヲ内報シ其ノ承認ヲ經置キタル行懸リアルニ

2

3

付早速之ヲ取消スコトニ決シ其ノ旨總理ニハ伊達幹事ヨリ外相ニハ松田
理事ヨリ夫々通告スルコトトナレリ次ニ協會ノ基金募集ニハ政府ニ於テ
特ニ盡カスルニ非サレハ財界ノ不況及米國ノ聯盟不参加等ノ事由ニ顧ミ
到底其ノ成功ヲ期シ得サルニ付總理ニ請ヒ六月一、二、三日ノ内ニ有力
ナル實業家等ヲ官邸ニ招待シ協會設立ノ趣旨ヲ説明スルト共ニ釀金方ヲ
勸奨スルノ途ヲ講スルコトトシ右ハ濹澤會長全快ノ上改メテ總理ニ依頼
スヘキモ尙伊達幹事ヨリモ適當ノ機會ニ於テ此ノ趣ヲ内話シ其ノ内諾ヲ
促シ置クコトニ決セリ總會ノ會費ハ五圓トシ來賓及幹事位庶務ニ盡カセ
シ人々ヨリハ之ヲ徵セサルコトニ決セリ尙總會ニハ約二十名程ノ新聞記
者ヲ招待スルコトトシ其ノ人選ハ外政及霞俱樂部所屬ノ記者中ヨリ松田
理事ニ於テ適宜之ヲ選定スルコトトナレリ本會ノ事業ハ其ノ財政的基礎
カ確立スルニ非サレハ所期ノ目的ヲ達スルコト困難ナルニ付先決問題ト
シテ基本金募集ノ方法ヲ定メ然ル上活動ヲ開始スルコトトナレリ

B-0344

三、總會委員指名ノ件

山川、松田兩理事及伊達、杉村、澤田ノ三幹事ヲ總會委員ニ指名スルコトナレリ

四、會員募集ノ件

會員タラントスルモノハ會則ニ依リ二名ノ會員ノ紹介ヲ要スヘタ右ハ假事務所決定ノ上其ノ住所ヲ附シテ之ヲ申込マシムルコトニ決シ會員募集ニハ新聞ヲ利用スルコトトナレリ尙會費ハ追テ集金郵便ニテ取り立ツルコトトセリ將又爰ニ發起人タルコトヲ拒絕シタル向ニ對シテモ更ニ會則ヲ送附シテ會員タルコトヲ希望スルヤ否ヤ、議ムルコトニ決セリ

五、政府ノ補助金ニ關スル件

松田理事ヨリ本件ハ未タ具体的ニ外相ニ通スル迄ノ遲ニハ至リ兼ネ居ルモ近日爰ニ理事會ニ於テ決定シタル豫算案ヲ具シ其ノ内諾ヲ得ル積ナリ

ト述ヘ尙外相ハ本會ノ組織ニ付テハ相當金額ノ補助ハ政府ニ於テモ之ヲ覺悟セサルヘカラストノ意圖ナルヤニ承知シタルヲ以テ補助金ヲ得ル事必シモ困難ナラスト思考スル旨ヲ附加シ山川理事ハ創立費五萬圓中多少ハ民間ヨリモ之ヲ醸出スルコトトスル方會ノ性質上望マシト説キ一同ノ同意ヲ得タリ

將又阪谷副會長ニ依リ本會ノ基金ハ之ヲ創立前ニ募集シ置クニ非サレハ將來必ス財政難ニ陥ルヘキニ付此ノ點ニ付篤ト協議ヲ遂ケタキ旨ノ提議アリ種々討議ノ結果先ツ宮内省ヨリ五十萬圓三井三菱ヨリ各十萬圓住友藤田ヨリ五萬圓古川ヨリ三萬圓大倉ヨリ二萬圓ト言フカ如キ振合ニテ百萬圓以上ノ基本金募集ノ腹案ヲ立ツルコトトナリ一方六月一、二、日又ハ三日ノ内ニ開カルヘキ招待會ニ於テ首相ヨリ篤ト醸出方ノ勸説ヲ請フト共ニ濫澤會長ヨリモ各個人ニ付熱心勸誘ヲ願フコトニ決シ又宮内省ノ方ハ總裁及名譽

總裁決定ノ上其ノ向ニ對シ御盡力ヲ仰クコト可然ト言フニ意見一致セリ
 即チ本會ノ財政ハ政府ヨリ八年々豫算ニ依リ支出スル五萬圓ノ補助金（初
 年度ノ五萬圓ハ創立費ナルヲ以テ機密費ヨリ之ヲ支出スルコト）ニ加フル
 ニ宮内省ヨリノ五十萬圓及民間ヨリ匯出サルヘキ約五十萬圓合計百萬圓ノ
 基金ヨリ生スル利子ヲ以テスルモノニテ基金募集以前ノ當座ノ費用ニハ
 會長ノ名義ニテ第一銀行ニ當座ヲ開キ以テ之ヲ支算スルコトナレリ尙首
 相官邸ニ於ケル招待會ニ出席スヘキ實業家ノ氏名竝之ニ割當ツヘキ匯出金
 ノ金額ニ付テハ杉村幹事ヨリ阪谷副會長ノ手許迄草案ヲ提出スルコトニ決
 セリ將又吉井理事ハ政府ノ補助金支出方ハ衆議院ヨリ之ヲ提出シ國民ノ意
 思トシテ之ヲ要求スルヲ希望ストノ意見ヲ述ヘタリ

六、 幹事並書記長及書記指名ノ件

幹事ハ伊達、杉村、澤田ノ三氏ニ之ヲ委則シ書記長ハ澤田氏ニ於テ之
 ヲ兼ネ書記ハ本年書記生試験ニ合格セシ者ヨリ澤田氏ノ裁量ニ依リ之
 ヲ採用スルコトナレリ尙會計ニ關スル事務總務部ノ事務ヨリ之ヲ分
 離シ會計監督井上理事ノ指名スル有給ノ會計主任ニ依リ之ヲ取扱ハシ
 メ右主任ハ出納其ノ他本會會計ニ關スル一切ノ事務ヲ處理スルモノト
 シ本件ハ添田副會長ヨリ至急井上理事ニ依頼スルコトナレリ

七、 假事務所設置ノ件

事務所ハ假ニ商業會議所内ニ之ヲ設ケ事務室ハ之ヲ設ケサルモ差向キ
 本會宛ノ郵便物ヲ受付クルコトトシ其ノ旨坂谷副會長ヨリ商業會議所
 ニ申入ルルコトニ決セリ

八、 「レイ」氏及「パウルス」氏ニ書籍購入方依頼ノ件

B-0344

「レイ」氏及「パウルス」氏ニ依頼シテ聯盟ニ關スル書籍ヲ購入スルノ件ハ金額ヲ一定セシテ漠然ト之ヲ依頼シ代金ハ立替ヲ請ヒ置クハ決セリ尙右代金ノ金額ニ付テハ追テ井上會計主任ノ許諾ヲ經テ之ヲ決スルコトナレリ

九、 調査部ニ委員ヲ置クノ件

總務部及宣傳部ニハ委員ヲ置カサルモ調査部ハ之ヲ數多ノ班ニ分チ例ハ法律、軍事、勞働等ト云フカ如キ各部門ニ付専門家ヲ委員ト爲シ調査ヲ進ムルコトナレリ尙穗積理事ヲ初メ立博士其ノ他陸海軍ノ當局者並新聞記者等ヨリ有爲ノ士ヲ物色シテ委員ト爲スコトニ決セリ

各國協會ト聯絡ヲ取ルノ件

十、 聯盟會議ニ常任理事二名ヲ派遣スルノ件

以上二件ハ最近ニ開カルヘキ理事會ニ於テ之ヲ協議スルコトニ決セリ

國際聯盟協會設立ニ關スル各書類

目次

- 一 各國國際聯盟協會ノ聯合會議
- 一 大日本國際聯盟協會設立内協議會次第 (大正九年三月四日)
- 一 同 (三月十日)
- 一 國際聯盟協會設立相談會
- 一 國際聯盟協會第一回特別委員會
- 一 同 第二回特別委員會

B-0344

發起人依頼狀

發起人會次第

發起人會ニ於ケル濫澤男爵挨拶

發起人會ニ於ケル添田博士ノ開會辭

國際聯盟協會ノ組織ニ關スル協議

〔附 會 則〕

發起人會出席者名簿

國際聯盟協會第一回理事會議事錄

五月十日國際聯盟協會協議會

B-0344

國際聯盟協會ノ設立及完成ニ關スル相談會ノ經過要領

一 各國國際聯盟協會ノ聯合會議

國際聯盟ノ趣旨達成ヲ目的トスル各國ノ國際聯盟協會ハ大正八年一月二十六日ヨリ同二月三日迄巴里ニ於テ第一回會議ヲ開催シ次テ同月十一日ヨリ十三日迄倫敦ニ於テ第二回會議ヲ開キ而シテ同十二月一日ヨリ三日迄「ブリュッセル」ニ於テ第三回會議ヲ催シ茲ニ結束シテ一ノ聯合（ユニオン）ヲ組織シ第四回國際聯盟聯合會議ハ大正九年五月頃羅馬ニ於テ之ヲ開會スルニトナレリ

各國ニ於ケル有識者ノ多數カ國際聯盟問題ニ甚大ノ注意ヲ拂ヒ之カ研究ノ目的ヲ以テ各種ノ團體ヲ組織シ世界恒久平和ヲ爲獨リ自國輿論ノ啓發ノミナラス努メテ他國ノ有識者ト意見ノ交換ヲ行ヒ遂ニ前記聯ノ目的ヲ達スルニ至リタルニトハ今更絮説ノ要ナキ所ナリ

各國國際聯盟協會ノ聯合會議

B-0344

而シテ各國ニ於ケル聯盟協會ナルモノハ固ト民間ノ事業ナルモ多數ノ
知名有力者ヲ網羅シ其ノ決議ハ自ラ各國ノ輿論ニ多大ノ影響ヲ與ヘ各
國政府ト雖之ヲ無視シ得サルニ願シ其ノ聯合會議ニ我代表者ヲ參列セ
シムルハ蓋シ猶豫スヘカラサル緊切事ノ一ニ屬スト言フヘキナリ

二 第三回會議參加ノ次第

然レトモ聯合會議ハ本來各國ニ於ケル聯盟協會ノ代表者ニ依リ組織セ
ラルルモノニシテ斯ル團體ヲ有セサル國ハ之ニ參加シ得サル次第ナレ
ハ第三回會議ノ開催ニ際シ在巴里本邦有志ハ其ノ前巴里ニ於テ申合
タル日本聯盟協會ノ假組織ヲ申立テ幸ニ該會議ニ委員ヲ列席セシムル
ヲ得タリ

尙右會議ニ列席シタル本邦代表者ハ秋月左都夫、前田正名、小野塚喜
平治、山田三良、堀内謙介、末廣殿太郎、六氏ナリキ

下相談會（大正九年三月四日）

翻テ本邦ニ於ケル實情ヲ看ルニ變ニ講話會議開催中在巴里本邦有志間
ニ本協會ノ設立ニ付了解ノ成立セルモノアリタル外日本平和協會、婦
一協會、國際法學會其、他ノ團體ニシテ夫々日本國際聯盟協會ノ設立
ニ關シ各種ノ計畫ヲ試ムルモノアリ一方政府側ニ於テモ可成速ニ右協
會ノ成立ヲ熱望シ居リタル際トテ本省ニ於テハ前記ノ事態ニ願ミ此際
各方面ニ於ケル計畫ヲ統一シ以テ大規模ノ協會設立ヲ促進助成シ一日
モ早ク協會ヲ設立スルノ要ヲ認メ三月四日條約局長室ニ於テ小人数ノ
下相談會ヲ開クコトニ決セリ

右下相談會ニハ立作太郎、山川端夫、松田道一、伊達源一郎、杉村陽
太郎、澤田節藏ノ六氏出席シ種々協議ノ結果本件ハ第三回會議ノ行掛
リモアルニ付既存協會ノ組織完成ノ主旨ヲ以テ協議ヲ進ムルコト、各

B-0344

方面ニ於ケル協會設立ノ企圖ニ賛助ヲ與ヘ之カ促進ヲ圖ルコト、右決定ノ上ハ會則案ヲ討議シ且組織員ヲ内定スルコト及本協會ハ私的團體ニシテ政府ノ機關ニ非サルヲ以テ其ノ經費ハ會費及寄附金ヲ以テ之ヲ支拂スヘキコト等ニ有協議シ尙三月十日築地精養軒ニ於テ國際聯盟協會設立ノ議ニ與リタル在巴里本邦有志者中ノ在京者ニモ出席ヲ請ヒ更ニ相協會ヲ催スコトニ決セリ

四 相協會（大正九年三月十日）

本相協會ハ藤田一、原正治、立作太一、山川龍夫、松本陸、松田道一、谷澤清一郎、杉村謙太郎、澤田恒義ノ九氏出席シ（岡實氏ハ招待セラレタルモ差支ノ爲缺席）前記下相職ニ於ケルト同様ノ議ノ爲シタル後協會ノ設立ヲ企圖スル各團體ノ代表者ヲ會同シテ聯合ヲ遂ケ統一的ノ協會組織ノ方向ニ一歩ヲ進ムルコトニ決定シ且茲ニ在巴里

本邦有志ノ協議ニ依リ成立セル了解ニ基キ協會ハ一應既ニ設立済ノモノト決定シ下相協會ニ於テ協議シタル會則案ヲ以テ其ノ會則トナシ協會ノ設立ニ關シ計畫中ナル諸團體ト右既設ノ協會ト協同シテ茲ニ帝國ニ代表的ナル大規模ノ協會ヲ組織シ役員ノ選定及會則ノ新定等ヲ行ヒ以テ既成協會ノ完成充實ヲ圖ルコトニ議一決セリ

將又來ル五月頃羅馬ニ開カルヘキ等ノ第四回聯合會議ニ代表者派遣ノ件ハ期日ノ切迫其ノ他ノ事情ニ顧ミ困難ナルニ付右ニ關シテハ政府ニ於テ然ルヘク配慮アリタキ旨ヲ議決シ其ノ旨三月十八日外務大臣ヨリ右佛國松井大使ニ對シ前記相協會ノ經過ト共ニ電報セリ

五 準備委員會（大正九年三月二十二日）

右相協會ノ決定ニ從ヒ三月二十二日築地精養軒ニ於テ各團體ノ代表者ヨリ成ル準備委員會ヲ開キ寺尾享、添田壽一、宮岡恒次郎、田川大吉

郎、姉崎正治、立作太郎、山川端夫、松田道一、野村正治、伊達源一
郎、澤田節藏、友枝高彦ノ十二名出席シ（阪谷芳郎、海老名正、高
楠順次郎、高橋作衛、美濃部達吉、岡實、林毅陸、藤積重遠、杉村陽
太郎ノ諸氏ハ招請セラレタルモ缺席）種々討議ノ末各團體一致シテ協
會ヲ組織スヘキコトニ決シ本協會組織ノ方法ヲ決定シ會則ヲ起草シ及
役員ノ豫選等ヲ行フ爲吉井幸藏、寺尾享、添田壽一、宮岡次郎、井
上準之助、姉崎正治、田川大吉郎、山川端夫、松田道一ノ九氏ヲ特別
委員ニ擧ケ右完了ノ上ハ廣ク各方面ノ名士ヲ網羅スル發起人會ヲ催シ
以テ本協會ノ組織ヲ完成スルコトニ決定シタリ

六 特別委員會（大正九年三月三十日及四月五日）
右特別委員會ハ三月三十日及四月五日ノ兩回築地精養軒ニ會合シ（第
一回ニハ添田壽一、寺尾享、宮岡次郎、田川大吉郎、山川端夫、松田

道一ノ六氏出席伊達源一郎、杉村陽太郎ノ兩氏列席、第二回ニハ添田
壽一、田川大吉郎、山川端夫、松田道一ノ四氏出席伊達源一郎、杉村
陽太郎、澤田節藏ノ三氏列席）別紙甲號ノ如キ會則案ヲ議了シ別紙乙
號列記ノ諸氏ニ發起人ヲ依頼シ別紙丙號ノ如キ依頼狀ヲ發スルコトト
シ尙四月二十三日發起人會ヲ開クコトニ決定セリ

附 屬 別 紙

- 甲號 國際聯盟協會會則案
- 乙號 發起人タルコトヲ依頼スヘキ人名案
- 丙號 右ニ關スル依頼狀

B-0344

大日本國際聯盟協會設立內協議會次第

甲 協會ノ設立及之ニ關スル事項ヲ協議スル爲三月四日夜外務省條約局長室ニ於テ下相談會ヲ開クコト

出席豫定者

條約局長

杉村書記官

澤田書記官

立博士

山川博士

伊達源一郎氏

大日本國際聯盟協會設立內協議會次第（大正九年三月四日）

B-0344

乙 議 題

- 一 日本ニ國際聯盟協會ヲ設スルコト
第三回萬國國際聯盟協會聯合會議ニ對シ日本ノ協會ヲ既設ノモノトシテ代表者ヲ參列セシメタル行掛リアリタルニ願シ今回ハ表面上ハ協會ノ新設ニ非ス單ニ既存協會ノ組合完成ノ趣旨ヲ以テ協議ヲ進ムルコト
- 二 本件ニ關シ各種ノ方面ニ獨立個々ノ計畫企圖アル場合ニ於テ如何ニ之ヲ統一シテ以テ代表的ノ一協會ヲ設立スヘキヤノ點ニ關シ考慮スルコト
- 三 協會會則案ヲ協議スルコト
此ノ點ハ先決問題タル以上ノ諸點決定ノ上討議スルコト
- 四 組織員ヲ內定スルコト

- 會則ノ如何ニ拘ラス協會事業ノ發展ト否トハ主トシテ之ヲ組織スル人士ノ如何ニ依ルモノナレハ此ノ點ハ特ニ具體的ニ慎重考慮ノ要アルコト
- 尙外國人ハ會員タルヲ認ムルヤノ問題等決定ノコト
- 五 協會ノ設立即チ組織完成ニ至ル迄ノ順序ヲ豫定スルコト
來ル四月ニハ羅馬ニ於テ第四回國際聯盟協會聯合會議開催セララル豫定ナルニ付成ルヘク至急ニ組織完成ノ手續ヲ履ムヲ要スルコト
- 六 其ノ他帝國ニ本協會ヲ完全ニ成立セシムルニ付必要ナル諸件討議考量ノコト

B-0344

綱領ノ大要

- 一 本協會ノ會則ハ既存ノ協會ニ對シ新ニ設ケタル遵則ニ過キサルコトヲ仄カスコト
- 二 本協會ハ純然タル學問上ノ見地ヨリ國際聯盟思想ノ普及故國際聯盟ノ主義ニ法リ世界恒久ノ平和ヲ攻究企圖セムトスルモノノ集合ナリ從テ何等政治的等ノ意義ヲ有スル團體ニ非ルコト
- 三 本協會ハ私的團體ニシテ政府ノ機關ニ非ス其ノ經費ハ一ニ一般寄附金及會員ノ據金ヲ以テ之ヲ支辨スヘキコト

事業

- 一 毎月會誌ヲ發行シテ國際聯盟ニ關スル論說、文書及報導ヲ掲載スルコト
- 二 隨時公開ノ講演會ヲ催シ内外ノ名士ヲ招請シテ國際聯盟思想ノ普及ニ關スル演說ヲ乞フコト
- 三 本會ノ目的遂行ノ爲必要ナル公刊ヲ爲スコト
- 四 各國ニ設立セル國際聯盟協會ト連絡ヲ保チ且國際聯盟協會聯合總會ニ委員ヲ派遣スルコト

B-0344

大日本國際聯盟協會設立內協議會次第

甲 協會ノ設立及之ニ關スル事項ヲ協議スル爲三月十日夜精養軒邸
於テ下相談會ヲ開クコト

出席豫定者

添 田 博 士
姉 崎 博 士
立 博 士
岡 博 士
山 川 博 士
林 博 士
伊 達 源 一 郎 氏
松 田 道 一 氏

大日本國際聯盟協會設立內協議
會次第（大正九年三月十日）

B-0344

杉村陽太郎氏

澤田節藏氏

乙 議 題

- 一 日本ニ國際聯盟協會ヲ設立スルコト
第三回萬國國際聯盟協會聯合會議ニ對シ日本ノ協會ヲ既設ノモノトシテ代表者ヲ參列セシメタル行掛リアリタルニ願ミ今回ハ表面上ハ協會ノ新設ニ非ス單ニ既存協會ノ組合完成ノ趣旨ヲ以テ協議ヲ進ムルコト
- 二 本件ニ關シ各種ノ方面ニ獨立個々ノ計畫企圖アル場合ニ於テ如何ニ之ヲ統一シテ以テ代表的ノ一協會ヲ設立スハキヤノ點ニ關シ考慮スルコト
- 三 協會會則案ヲ協議スルコト

- 四 此ノ點ハ先決問題タル以上ノ諸點決定ノ上討議スルコト
組織員ヲ內定スルコト

會則ノ如何ニ拘ラズ協會專業ノ發展ト否トハ主トシテ之ヲ組織スル人
士ノ如何ニ依ルモノナレハ此ノ點ハ特ニ具體的ニ慎重考慮ノ要アル
コト

尙外國人ハ會員タルヲ認ムルヤノ問題等決定ノコト

- 五 協會ノ設立即チ組織完成ニ至ル迄ノ順序ヲ豫定スルコト

來ル四月ニハ羅馬ニ於テ第四國際聯盟協會聯合會議開催セララル豫
定ナルニ付成ルヘク至急ニ組織完成ノ手續ヲ履ムヲ要スルコト

- 六 其ノ他帝國ニ本協會ヲ完全ニ成立セシムルニ付必要ナル諸件討議考
量ノコト

B-0344

綱領ノ大要

- 一 本協會ノ會則ハ既存ノ協會ニ對シ新ニ訂ケタル遵則ニ過キサルニ
ヲ仄カス。
- 二 本協會ハ純然タル學問上ノ見地ヨリ國際聯盟思想ノ普及並國際聯盟
ノ主義ニ法リ世界恒久ノ平和ヲ攻究企圖セントスルモノノ集合ナリ
從テ何等政治的等ノ意義ヲ有スル團體ニ非ルコト
- 三 本協會ハ私的團體ニシテ政府ノ機關ニ非ス其ノ經費ハ一ニ一般寄附
金及會員ノ募金ヲ以テ之ヲ支辨スヘキコト

事業

- 一 毎月會誌ヲ發行シテ國際聯盟ニ關スル論說、文書及報導ヲ掲載スル
コト
- 二 隨時公開ノ講演會ヲ催シ内外ノ名士ヲ招請シテ國際聯盟思想ノ普及
ニ關スル演說ヲ乞フコト
- 三 本會ノ目的遂行ノ爲メ必要ナル公刊ヲ爲スコト
- 四 各國ニ設立セル國際聯盟協會ト連絡ヲ保チ且國際聯盟協會聯合總會
ニ委員ヲ派遣スルコト

B-0344

國際聯盟協會設立相談會

三月二十二日午後六時築地精養軒ニ於テ開會出席者

田川大吉郎	友枝高彦
野村淳治	寺尾亨
宮岡恆二郎	添田壽一
姉崎正治	立作太郎
山川端夫	松田道一
伊達源一郎	澤田節藏

一 添田壽一氏ヲ座長ニ推ス

二 姉崎正治氏本日會合ノ趣旨ヲ述テ

曰ク本邦ニ國際聯盟協會設立ノ義ハ既ニ客年巴里講和會議中同地ニ在
リシ本邦有志間ニ唱導セラレタル處ナルカ右有志中既ニ歸朝セルモノ

國際聯盟協會設立相談會

B-0344

及ヒ其ノ他從來何等本件ニ關係アリシ有キ去ル十日相會シテ本協會設立ノ相談ヲナシタリ然ル處第四回國際聯盟協會國際總會ハ四月羅馬ニ開カルルコトニ内定シ居リ本邦ヨリモ代表者ヲ出ササルヘカラサル次第ニ付キ兎ニ角此ノ際協會ノ設立ヲ急カサルヘカラス依テ差當リ同日出席者及ヒ巴里以來本件ニ關係アリシモノヲ會員トシテ日本國際聯盟協會ヲ設立シ代表者派遣ノ件ハ一切政府ノ配慮ヲ煩スコトトセリ斯クシテ國際聯盟協會ハ一先ツ其ノ成立ヲ見ルニ至リタル次第ナルカ右ハ畢竟スルニ一時權宜ノ處置トシテ急造シタルモノニ過キス然ルニ一方日本平和協會第一協會國際日本協會國際法學會等ノ團體ニ於テモ各々聯盟協會設立ノ急務ナルヲ認メ夫々計畫セル所アルヤニ仄聞セル次第モ有之此際此等諸團體ト相協力シ大規模ニシテ權威アル協會ヲ設立スルコト最モ機宜ノ處置ト認メ本日御一同御出席ヲ求メ茲ニ本相談會ヲ開會スルコトトナレル次第也云々

三 寺尾亭氏田川大吉郎氏及姉崎正治氏各々國際法學會、國際日本協會及ヒ歸一協會ヲ代表シ此等各團體何レモ國際聯盟協會ノ設立ヲ歡迎スルモノニシテ此レカ爲メ何レモ進テ協力スヘキコトヲ述フ

四 姉崎氏本日會合ノ趣旨ヲ述フルニ際シ聯盟協會設立ノ上ハ日本平和協會ハ解体シテ聯盟協會ニ合併シテモ可ナリトノ意嚮アルヤニ承知スル旨述ヘタルニ對シ宮岡恆次郎氏ハ右ハ姉崎氏ノ誤解ニ不過旨說述シタル後本協會設立ニ關シ既設各團體ト連絡行動スルコト最モ便利ナラムモ本協會ノ基礎ヲ聯盟主義ニ熱心ナル主張者ニ置クニ非ヌムハ到底有力ナル團體ノ發現ヲ見ルコト能ハサルヘシ依テ本會トシテハ前記各團體ト大同團結シ一舉ニシテ事ヲ爲サムコトヲ計畫スルヨリハ寧ロ個人的運動ヲ爲ス方針ヲ以テ進ミタルカダ健實ニシテ成果ヲ收ムルコト大ナルヘシト述フ

五 右宮岡氏ノ所説ニ對シ立氏ハ各團體カ本協會ト大同團結ヲ爲シ得ル
ヤ否ヤハ各自團體ニ於テ決スヘキ問題ニシテ既ニ本日出席ノ各團體代
表者ハ何レモ互ニ協力シテ聯盟協會ヲ設立シタキ希望ヲ表示シタル次
第モアレハ速ニ本會組織ノ問題ニ議ヲ進メラレタシト述フ

六 之ニ次テ山川氏ハ右立氏動議採用ノ上事ノ進捗ヲ計ル爲メ特別委員
數名ヲ任命シ之レニ本會組織ノ方法會則ノ起草役員ノ豫選等ノ事務ヲ
一任シ右完了ノ上ハ廣汎ナル發起人會ノ如キモノヲ催シ同會ニテ更ニ
審議ヲ重ネタル上愈々本會ヲ設立スルコトトナシタシト述フ

七 右山川氏ノ動議ニ對シ多少議論モアリタルカ結局右動議採用ノコト
ニ一決シ座長ノ指名ニ依リ左ノ諸氏ヲ特別委員ニ舉クルコトニ決ス

姉崎 正 治 寺 尾 亨
吉井 幸 藏 松 田 道 一

井上 準 之 助 山 川 端 夫
宮 岡 恆 次 郎 田 川 大 吉 郎
添 田 壽 一

八 榎達氏ニ幹事ヲ依頼ス

九 右ニテ一應相談會ヲ終リ懇談ニ移リタルカ席上山川氏ヨリ本會創立
資金トシテ先ツ政府ヨリ幾分ノ寄附金ヲ仰クコトトシテハ如何カトノ
説出テタルカ宮岡田川兩氏ハ此ニ反對説ヲ唱ヘ一同種々議論ヲ交ヘタ
ルモ何等具体的決論ニ達セスシテ終リタリ將又本協會名稱ニ關シテハ
日本國際聯盟協會ト爲スヘシトノ説ト單ニ國際聯盟協會ニナスヘシト
ノ兩説アリタルカ結局日本語トシテハ後者ヲ採用シ英語トシテハ The
League of Nations association of Japan

トスルコトニ決定セリ

B-0344

國際聯盟協會第一回特別委員會

三月三十日午後六時築地精養軒ニ於テ開會 出席者次ノ如シ

添田壽一 寺尾享

宮岡恒次郎 松田道一

山川端夫 田川大吉郎

(列席者 幹事 伊達源一郎 杉村陽太郎)

先ツ會則案ニ付テ討議シ原案タル別紙甲號ニ對シ種々ノ修正ヲ加ヘタル
上別紙乙號ノ通りニ假確定シ次ニ役員ニ付テハ大体別紙丙號ノ如キ復案ヲ
以テ事ヲ進マシムルコトニ了解ヲ遂ケ又發起人ノ選定ニ關シテハ別紙丁
號ノ原案ニ對シ各委員ニ於テ適當ナル修正ヲ加ヘタル上四月三日迄ニ之
ヲ幹事ニ送付スルコトニ協議一決セリ
尙發起ハ會開催ノ件ニ關シ最終的決定ヲ遂クルカ爲四月五日正午精養軒
ニ於テ第二回特別委員會ヲ開クコトニ決セリ

國際聯盟協會第一回特別委員會

B-0344

内務

(イロハ順)

總裁 西園寺公望

名譽總裁 徳川家達

會長 大隈重信

副會長 吉井幸藏

秋月左都夫

理事 井上準之助

林毅陸

岡實

和田豊治
高橋作衛
田川大吉郎
添田壽一
武藤山治
松田道一
江木翼
姉崎正治
阪谷芳郎

B-0344

國際聯盟協會第二回特別委員會

四月五日正午築地精養軒ニテ開會出席者次ノ如シ

添田壽一 田川大吉郎

山川端夫 松田道一

列席者 幹事 伊達源一郎

杉村陽太郎 澤田節藏

先ツ發起人ノ選定ヲ行ヒ次ニ會則案ヲ討議シ三月三十日ノ第一回特別委員會ニ於テ假確定シタル原案（別紙甲號）ニ對シ多少ノ修正ヲ加ヘタル上別紙乙號ノ如キ成案ヲ得役員ニ付テハ假ニ別紙丙號ノ通ノ申合セヲ爲シ別紙丁號列記諸氏ノ名ヲ以テ發起人依頼狀ヲ發スルコトトシ發起人會ハ來ル四月二十六日午後五時築地精養軒ニ於テ之ヲ開催シ濫澤男爵ヲ座長ニ推シ添田博士ヨリ本會ノ來歴及發起人會開催ニ至ル迄ノ經過ヲ述ヘ

國際聯盟協會第二回特別委員會

B-0344

會則案ヲ提出シテ同意ヲ求メ又役員ノ選定ハ之ヲ會長タルヘキ座長澁澤
男爵ニ一任スル旨ノ提議ヲ爲シ會長ニ於テ夫々指名シタル後晚餐ニ移リ
（會費金五圓）食後ハ自由談話ヲ以テ終ルコトニ定メ發起人依頼狀ニハ
發起人タルコトノ諾否及發起人會出席ノ諾否ニ付回答ヲ求ムルコトトシ
尚澁澤男爵ニ對シ會長及發起人會當日ノ座長依頼ノ件ハ松田、伊達ノ兩
氏ニ於テ之ヲ引受ケ近日牧野男爵ノ書面ヲ携帶シテ往訪スルコトトナレリ
將又發起人依頼狀ニハ會則案ヲ添附スルノ外簡單ニ本會ノ趣旨ヲ述フル
ニ止メ詳細ノ説明ハ之ヲ發起人會ニ讓ルコトトシ依頼狀ハ伊達氏ニ起草
ヲ一任セリ

B-0344

發
起
人
依
賴
狀

B-0344

拜啓春暖之候益々御多祥奉慶賀候陳者國際聯盟ハ御承知ツ通
 リ講和條約中ニモ規定セラレ且文明諸國間ノ關係ヲ支配スル
 事實上ノ一大勢力ト相成候處我が日本ハ嘗ニ聯盟規約ノ調印
 國トシテノミナラズ五大國ノ一員トシテ之ニ對シ輕ルカラザ
 ル責任ヲ有スル事ト存候既定ノ聯盟規約ニハ批評スベキモノ
 モ可有之トハ存候へ共國際聯盟ノ目的及精神ハ大ニ贊同ヲ表
 スベキモノニ有之是レガ達成ハ嘗ニ政府當局ノミニ一任スヘ
 キモノニアラズシテ國民的ニ努力ヲ要スヘキ儀ト被存候現ニ
 英米佛伊諸國皆民間有志ノ設立ニ係ル國際聯盟協會ヲ有シ國
 際關係ニ對シ偉大ナル勢力ヲ發揮致居候處我が日本ニハ此等
 諸國ニ於ケルガ如キ直ニ國民ヲ代表スル協會未ダ成立シ居ラ
 ザルガ爲メ國民外交ノ實行上遺憾大ナルヲ感ズル次第ニ有之
 候

昨年講和會議ノ當時巴里ニ集マリタル日本人中國國際聯盟協會
 設立ノ必要ヲ感シタル同志日本新聞記者俱樂部ニ於テ一應協
 會ヲ組織シ以テ今日ニ至リ候ヘドモ斯ノ如キ小規模ノモノニ
 テ満足スベキニアラザルハ申迄モナキ儀ニ有之此際新ニ日本
 國民各方面ニ於ケル有力者ノ發起ニヨリテ國民的ノ國際聯盟
 協會ヲ設立致度存候間何卒御贊同ノ上發起人タルコトヲ御承
 諾被下度御參考マデニ別紙會則案相添へ此段奉願上候
 尙ホ來ル四月二十三日午後五時ヨリ築地精養軒ニ於テ發起人
 會相開キ候間御繰合セ御出席願上候 敬具

大正九年四月十二日

(イロハ順)

- 林 陸
- 德 積 重
- 友 枝 高
- 岡 井 幸
- 吉 野 作
- 吉 楠 順 次
- 高 橋 作
- 高 橋 順 次
- 田 川 大 吉
- 立 川 大 吉
- 伊 達 源 一
- 添 田 壽 一
- 野 村 淳 治
- 山 川 端 夫
- 松 田 道 一
- 海 老 名 彈 正

B-0344

キモノニアラズシテ國民的ニ努力ヲ要スヘキ儀ト被存候現ニ
 英米佛伊諸國皆民間有志ノ設立ニ係ル國際聯盟協會ヲ有シ國
 際關係ニ對シ偉大ナル勢力ヲ發揮致居候處我ガ日本ニハ此等
 諸國ニ於ケルガ如キ直ニ國民ヲ代表スル協會未ダ成立シ居ラ
 ザルガ爲メ國民外交ノ實行上遺憾大ナルヲ感ズル次第ニ有之
 候

昨年講和會議ノ當時巴里ニ集マリタル日本人中國國際聯盟協會
 設立ノ必要ヲ感シタル同志日本新聞記者俱樂部ニ於テ一應協
 會ヲ組織シ以テ今日ニ至リ候ヘドモ斯ノ如キ小規模ノモノニ
 テ満足スベキニアラザルハ申迄モナキ儀ニ有之此際新ニ日本
 國民各方面ニ於ケル有力者ノ發起ニヨリテ國民的ノ國際聯盟
 協會ヲ設立致度存候間何卒御贊同ノ上發起人タルコトヲ御承
 諾被下度御參考マデニ別紙會則案相添ヘ此段奉願上候
 尙ホ來ル四月二十三日午後五時ヨリ築地精養軒ニ於テ發起人
 會相開キ候間御繰合ヒ御出席願上候 敬具

大正九年四月十二日

- (イロハ順)
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|------|------|-------|-----|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|------|-----|------|-----|-----|
| 美濃部達吉 | 宮岡恒次郎 | 阪谷芳郎 | 姉崎正治 | 秋月左都夫 | 寺尾亨 | 海老名彈正 | 松田道一 | 山川端夫 | 野村淳治 | 添田壽一 | 伊達源一郎 | 立作太郎 | 田川大吉郎 | 高橋作衛 | 高楠順次郎 | 吉野作造 | 吉井幸藏 | 岡井實 | 友枝高彦 | 林積重 | 陸毅遠 |
|-------|-------|------|------|-------|-----|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|------|-----|------|-----|-----|

追而發起人タル事ノ御諾否及御出席ノ有無至急封入ノ端
 書ニテ御一報御願申上候(二十三日發起人會へ御出席ノ節
 ハ之ガ會費トシテ金五圓御持參被下度候)

B-0344

發起人會次第

國際聯盟協會發起人會次第

(大正九年四月二十三日築地精養軒ニ於テ開催)

一、午後五時開會

二、開會ノ辭

三、協會ノ組織ニ關スル協議

一、會則案

二、役員選定

四、晚餐

B-0344

大正九年四月二十三日國際聯盟協會發起人會ニ於ケル

座長 澁澤男爵ノ挨拶

只今私ニ座長ヲ御引受致ス様ニトノ御話テ御座イマシタカ元來私ハ國際聯盟ニ付テ深イ研究ヲ遂ケタ譯テモナク又之ニ關シテ詳シイコトモ存シマセヌノテ御引受致スニ大ニ躊躇スル次第テ御座イマス
尤モ私トシテモ全然此ノ方面ノ考ヲ持タナカツタノテハナク戰亂以來武力以外ニ何カ學問的又ハ精神的ニ人類ノ進歩ニ貢獻スル方法ハ無イモノテアロウカトノ希望ヲ馳ケ乍ラモ抱イテ居リマシタ我國カラ講和使節カ巴里ヘ出發セラレマシタ頃ハ私ハ恰モ病中デアリマシタカ添田君姉崎君ヲトト模索的ニ此ノ會議ノ結果何物カヲ得ルコトハナキカト考ヘテ居リマシタ我國カラハ牧野男初メ立派ナ方々カ大勢御出掛ケニナリマシタカ之ハ主トシテ物質上ノコトテ或ル部分ハ精神的ノコトモアリマスケレト

發起人會ニ於ケル澁澤男爵ノ
挨拶

B-0344

モ若シ戦後精神的ノ點ニ於テモ何等カノ進歩ヲ見ルコトカ無イ様デア
ナラハ寧ロ文明ノ進歩ハ人類ノ幸福ノ爲ニ禍スルコトトナルノテハアル
マイカ文明ノ利器ヲ用ヒテ相殺戮スルコトノミヲ專ラスル様テハ神カ人
ヲ作ツタ目的ニ反スル譯テハアルマイカト古イ考カモ知レマセヌカソウ
云フ考ヲ抱イテ居リマシタソレテ姉崎君カ出掛ケラレル時同君ヘモ自分
ノ説ノ外ニ廣ク此ノ方面ニ關スル他人ノ説ヲ聽イテ參ラレル様ニトノ希
望ヲ述ヘテ置キマシタカソレハ唯希望ニ止マルノミデアリマシタ
巴里講和會議ノ結果ハ只今添田君ノ申サレマシタ通り吾人ノ豫期ヨリモ
足並カ遅イ様ニ思ハレマスカ之ハ到底致シ方ノ無イ事デアリマセウ又他
ノ總テノ國カ國際聯盟ニ關シテ充分ナル研究ヲ遂ケツツアル際其ノ完全
ナル成立ヲ望ム爲我國ニ於テモ場合ニ依ツテハ一ノ組織ヲ作り之カラ外
國ニ人ヲ出シ又ハ調査ヲスルト云フ様ナコトノ必要ナコトハ大體考ヘテ

居リマシタ然シ私ハ其ノ筋ノコトニ付學問モナク研究モ遂ケテ居ナイ門
外漢デアアルノテ今申上ケタ様ナコトヲ充分研究セラレテ居ル方々ノ間ニ
コンナ企ノ成立アレカシト願フノミデアリマシタソレテ近頃コノ國際聯
盟協會ノ成立ノ經過ヲ承ツテ聽ンテ本日出テ參ツタ次第テコサイマス自
分テ大變必要タト申シ乍ラ今迄一向研究モ盡カモシナイノハ言行不一致
トノ御叱リカ在ルカモ分リマセヌカ自分ノ智識カ足ラス尙ニ合ハヌト考
ヘマシタノテ智者學者ノ方々ノ御高配ヲ俟ツノ外ハ無イト考ヘテ居タ
第テ御座イマス

今日參上致シマシテココニ座長ノ席ヲ汚シマスコトハ甚々名譽ト存シマ
スカ一方又迷惑トモ存セラレマス然シ當初カラ私ノ抱イテ居リマシタ希
望ハ諸君ノ顧見ニ附シテヤリタイ否更ニソレヨリモ強イモノカアルノテ
アリマスカラ御推舉ニ從ヒ年長者トシテ座長ノ席ヲ汚シマス體事ノ進行
ハ諸君ニ於テ然ルルカ御願致シマス (拍手)

B-0344